夫婦間の呼びかけ表現の日韓比較：コンテクスト化のアイズという観点から

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2017-10-03
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者:
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/17088

夫婦間の呼びかけ表現の日韓比較

—コンテクスト化の合図という観点から—

人間社会環境研究科　博士前期課程２年　尹 秀美*

＜概　要＞

日本人夫婦はお互いを「ママ」や「お母さん」、「パパ」や「お父さん」と呼ぶ場合が多い。しかし、韓国人にはそういった親族名称の「ママ」や「パパ」でお互いを呼び合う夫婦は自分の子どもが幼い時期を除いてほとんどいない。その代わりに夫婦専用の呼びかけ表現である「여보 yeobo」「당신 dangsin」、または「子供の名前+엄마 eomma」「子供の名前+아빠 appa」で相手を呼ぶことが多い。このような呼びかけ表現自体の違いに関する研究は従来でも数多くあるが、場面ごとに夫婦間で使用される呼びかけ表現の種類や頻度、さらにはそのメタコミュニケーション上の機能に着目した研究は今までほとんどなかった。

本研究では、日本人夫婦間と韓国人夫婦間で使用可能な呼びかけ表現の日韓比較を行なう。夫婦間で使用される呼びかけ表現の種類や頻度を日本語と韓国語について比較するだけでなく、夫婦間の会話におけるメタコミュニケーション上の機能に関しても分析する。

調査は、ハリウッド映画の日本語・韓国語版や日本と韓国の映画および日本と韓国のドラマに登場する夫婦間の会話を資料にそこで使用される呼びかけ表現を分析し、その結果をさらに日本と韓国の実際の夫婦間の会話で検証をした。

その結果、①日本人夫婦に比べて韓国人夫婦が会話において呼びかけ表現をより頻繁に用いること、②日本人夫婦に比べて韓国人夫婦の呼びかけ表現のバリエーションが多様であることこと、③韓国人夫婦が使う呼びかけ表現は会話中メタコミュニケーション的な機能、つまりコンテクスト化の合図（contextualization cues)としての機能を持っていること、④他方、日本人夫婦間の会話では、呼び

* E-mail:smy8005@hotmail.com

かけ表現の代わりにフィラー（fillers）がコンテクスト化の合図としての機能することが明らかにされた。

このように、日本人と韓国人はコンテクスト化の合図として異なる言語手段を用いているが、その背景には両国の会話スタイルの違いがあると考えられる。そのような会話スタイルの違いを明らかにするためには、呼びかけ表現やフィラーだけでなく、コンテクスト化の合図として利用可能なさまざまな言語的・非言語的手段を分析していくことが必要であるという展望を最後に提示した。

<キーワード>

コンテクスト化の合図、呼びかけ表現、フィラー、日韓比較

目　次

第１章　序論

第２章　日本人夫婦間および韓国人夫婦間の呼びかけ表現に関する先行研究

第３章　夫婦間の呼びかけ表現の使用頻度および種類の日韓比較

第４章　韓国人夫婦間で使用される呼びかけ表現がもつコンテクスト化の合図としての機能

第５章　日本人夫婦間で使用されるフィラーがもつコンテクスト化の合図としての機能

第６章　会話における発話解釈への話し手と聞き手の貢献

第７章　結論

文献

資料（映画およびドラマの調査資料）

第1章　序論

1.0.　はじめに

第1章は序論である。本研究の目的や構成について説明し、本論で用いられる主な用語について定義する。

1.1.　研究目的

1.1.1.　背景

日本語には「-さん」という便利な接尾語がある。初対面で相手をどう呼べばいいかわからない場合、名字に「-さん」を付けて呼べばおそらく問題は生じないであろう。韓国語にも似たような表現の「-씨 ssi」がある。そのため、大学で韓国語を学ぶ日本人学生が、「-씨 ssi」を日本語の「-さん」のような表現だとみなし、その同級生の学習者どうしが相手の名前の○○に「-씨 ssi」をつけて「○○씨 ssi」で呼び合う場面を見かけることがある。しかし、韓国では大学の同級生どうしが「○○씨 ssi」で呼び合うのは不自然である。つまり、対応しているとされる「-さん」と「-씨 ssi」は、たとえば目上の者に対して日本語では「-さん」が使えるが、韓国語の場合「-씨 ssi」が使えないなど、その使用範囲が異なる。

同様に、韓国人の日本語学習者どうしが日本語で話したりメールのやり取りをしたりする場合、名字や名前に「-さん」を付ける便利な呼びかけ表現が日本語にあるにもかかわらず、特に相手が目上の人の場合、「お兄ちゃん」や「お姉ちゃん」という表現を使って呼ぶことが多い。または、韓国語の呼びかけ表現だけをカタカナに変えた「オパ（오빠 oppa：お兄ちゃん）」や「オンニ（언니 eonni：お姉ちゃん）」を用いて呼ぶ場合もある。これは、韓国語の習慣としての呼びかけ表現をそのまま日本語に訳しただけであるが、日本人には違和感を覚える用法である。

このようなことから、日本語と韓国語の呼びかけ表現は、その種類が異なるだけでなく、呼びかけ表現に対する日本人と韓国人の認識とそれに伴う用法も異なると予測することができる。言い換えれ

ば、会話における呼びかけ表現の重要度や機能が異なるものと推測される。

井上（2003）は映画のスクリプトを資料に、会話における英語と日本語の呼びかけ表現を比較し、日本語に比べて英語のほうが呼びかけ表現の使用率が高いことを指摘した。その理由について、日本語では、主に呼びかけ表現が実際に相手を特定し、その人に注意喚起するために使われるが、英語では既に会話の相手が特定され、会話が進行している状態でも呼びかけ表現を用いることがより多いからであると説明している。このように日本語では呼びかけ表現がそれほど使用されないことは、韓国語との比較においても妥当しそうだという印象がある。

呼称システムが複雑で社会的な上下関係に配慮する日本人と韓国人にとって、初対面の相手の呼び方は難しくかつ重要であることはよく知られている。呼びかけ表現が重要な役割を果たすのは、初対面の相手だけではない。夫婦や友達など、すでに関係が築かれている者どうしにおいてさえも、呼びかけ表現の選択は、場面やその時の心理的状態などに影響を受けることがある。このように同じ言語を母語とする者どうしでさえ、呼びかけ表現の使用はコミュニケーションにおいて重要な関心事となる。まして、相手が同じ母語を話さない場合、たとえば日本人と韓国人といった、文化的な背景が異なる者どうしの場合には、どちらの言語を用いて話すにせよ、どのような呼びかけ表現を選択すべきかは、さらに複雑な問題となろう。日本語と韓国語は呼称システムが似ているにもかかわらず、会話をする相手や場面によって、使用される呼びかけ表現の種類やその使用頻度が異なることが予想されるからである。

1.1.2. 目的

本研究では、このような呼びかけ表現の中でも、日本人夫婦間と韓国人夫婦間で使用される呼びかけ表現を材料に、夫婦間の呼びかけ表現の会話におけるメタコミュニケーション的な機能を分析する。メタコミュニケーション的な機能とは、会話において話し手が聞き手に発話の解釈の枠(context)を合図することであり、本研究ではとくにコンテクスト化の合図(contextualization cues)を意味する。一般に、コミュニケーションにおいて、話し手は自分の発話の意味

をさまざまな言語的・非言語的手段を用いて聞き手に示唆し、理解してもらおうと努力する。本研究の出発点は、そのような示唆手段の一つが、呼びかけ表現にあるのではないかという予測にあった。なお、様々な人間関係の中でも特に夫婦間の呼びかけ表現に着目するのは、たとえば父と息子のような上下が明確な関係と比べ、使用される表現の種類が多様であり、豊富な資料を提供してくれると期待できるからである。

本研究の目的を具体的に述べるとつぎの5点になる：1）夫婦間の呼びかけ表現の使用状況を映画やドラマに登場する夫婦間の台詞を通して日韓比較を行なう。その結果に基づいて、日本人夫婦と比べて韓国人夫婦が多様な呼びかけ表現を多用するのは、呼びかけ表現がコンテクスト化の合図としてメタコミュニケーション的に使用されているからだという仮説を提示する；2）その仮説を実際の韓国人夫婦の会話を利用して検証する；3）日本人夫婦は呼びかけ表現をほとんど使用しない代わりに、フィラーを多用する傾向にあるという分析結果に基づき、日本語ではフィラーがコンテクスト化の合図として機能しているという仮説を提示する；4）その仮説を実際の日本人夫婦の会話を利用して検証を試みる；5）夫婦間の会話において、日本人夫婦と韓国人夫婦はコンテクスト化の合図として異なる言語手段を利用する背景を考察し、コンテクスト化の合図という枠組みを利用した今後の研究を展望する。

1.1.3. 意義

本研究の意義は、つぎの3点にまとめることができる。A）韓国人夫婦間で使用される呼びかけ表現にはコンテクスト化の合図というメタコミュニケーション的機能が認められることを指摘し、それを実証的に検証した点、B）韓国人夫婦間の呼びかけ表現に相当するメタコミュニケーション的手段は、日本人夫婦間ではフィラーである可能性が高いことを例証した点、そしてC）コンテクスト化の合図という枠組みを利用して日韓の比較を行なう場合には、その背景となるコミュニケーション・スタイル差の研究との関連づけが不可欠であることを指摘した点である。

1.2. 用語定義

本研究で頻繁に用いる用語について次のように定義しておく。

・「呼称表現」(address terms)

ブラウン(Braun 1988: 7-14)によると、呼称には第三者に対して言及する時に使われる「言及表現 (reference terms)」と相手を直接呼ぶ時の「呼びかけ表現(vocative terms)」がある。さらに、呼びかけ表現は、発話文内で聞き手に対して直接その聞き手を指し文法上の主語となるいわゆる指称表現 (bound forms) と聞き手に直接呼びかける自由呼びかけ表現 (free forms) に分けることができる。例えば、「スミちゃん、スミちゃんはどこに住んでいますか。」のような文の中で、前の「スミちゃん」は自由呼びかけ表現で、後ろの「スミちゃん」は指称表現である。なお、以下の議論において「呼びかけ表現」と言う場合、特に断らない限り、「自由呼びかけ表現」を指すことにする。

・「フィラー」(fillers)

「フィラー」については研究者によってその解釈や定義が異なるが、本研究では発話文の中で、独立で自由に使われる感動詞や間投詞そして言いよどみなどの副次的な言語事象を指すことにする。例えば、「あ、ごめんね。」という文の中では「あ」がフィラーとなる。

・「コンテクスト化の合図」(contextualization cues)

ガンパース (Gumperz 1982)が提案した概念で、話者が発話の解釈のためにコンテクストとしてある種の合図をメタコミュニケーション的に送ることである。すなわち、メタコミュニケーション的に自分の意図をさまざまな言語手段または非言語手段を用いて相手に伝えようとすることである。このようなコンテクスト化の合図には、例えば、語彙だけでなく、イントネーションやアクセントやプロソディーのようなパラ言語的 (paralinguistic) 手段も含まれる。

コンテクスト化の合図には、このように多様な手段をその枠組みにもっているので、対照研究には便利である。なぜなら、ある言語にはある特定の言語単位がコンテクスト化の合図として機能しているとして、それと比較される別の言語には、その対応物が存在しない

場合がある。そのような場合、原理的に、同じ機能を果たしうる別の言語単位を引き合いに出して比較をすることが可能になるからである。

コンテクスト化の合図は、同じくメタコミュニケーション的言語手段であるディスコース・マーカー(discource markers)とは異なる。ディスコース・マーカーは、主に単語などの形式的言語単位が中心で、ディスコース（談話）の結束性(cohesion)と関連するものである(Schiffrin 1987)。

1.3. 本研究の構成

本節では、本章以降の構成を述べる。

第 2 章では、日本語と韓国語の夫婦の呼びかけ表現に関する先行研究を概観し、それぞれの研究の調査結果に基づき、両国の夫婦間の呼びかけ表現を年齢別と場面別に分けて総合的にまとめる。それによって、日本語と韓国語の夫婦間で使用可能な呼びかけ表現の種類、また年齢や場面による呼びかけ表現の差異を明示する。そして、調査結果が研究ごとに異なっていることを示すことによって、調査時期や調査対象者の情報（居住地域、職業など）が呼びかけ表現に影響を与える可能性があること、会話における呼びかけ表現の使用率などに注目していないことといった先行研究の問題点を指摘する。

第 3 章では、夫婦が主人公であるハリウッド映画の日本語字幕と韓国語字幕の比較や同じように夫婦が主人公の日本と韓国の映画やドラマを対象に、夫婦の間で使われる呼びかけ表現のバリエーションと会話中の使用頻度を比較する。それによって、日本語に比べて韓国語のほうが、会話中の呼びかけ表現の使用率が高く、夫婦の間で使用される呼びかけ表現のバリエーションが多いことを明らかにする。

第 4 章では、日本人夫婦に比べて、韓国人夫婦が会話中呼びかけ表現をより頻繁に使う理由は、韓国語の呼びかけ表現が会話においてコンテクスト化の合図という役割を果たしているからであるという仮説を提示する。その仮説を検証するために、実際の韓国人夫婦の会話資料を用いて分析し、韓国語における呼びかけ表現のコンテクスト化の合図としての機能を明らかにする。

第 5 章では、日本人夫婦が韓国人夫婦に比べて、呼びかけ表現を

ほとんど使わないのは、呼びかけ表現の代わりに、会話中コンテクスト化の合図として機能するほかの言語手段にフィラーを用いているという予測に基づき、実際の日本人夫婦間の会話と韓国人夫婦間の会話を比較分析する。同じ会話の場面での日本人夫婦と韓国人夫婦の発話を比較することにより、ほぼ同じ位置に韓国人は呼びかけ表現を、日本人はフィラーを使うことを明らかにする。

第 6 章は、本研究の総合的考察に相当し、コンテクスト化の合図として機能する言語手段が、韓国語では主に呼びかけ表現となり、日本語ではフィラーが中心になる理由を両国のコミュニケーション・スタイル、すなわち、会話における発話の理解に関する責任主体という観点から考察する。それによって、韓国人話者は自分の意図を積極的に伝えようとするが、日本人話者は聞き手に自分の意図を分かってもらえるように間接的に示唆を与える傾向があることを指摘する。

第 7 章では、結論として、本研究の成果をまとめ、今後の課題を指摘する。

なお、本研究の第 2 章から第 6 章は、国際学会などで発表した、以下の論文を下敷きにしているが、それに大幅な修正を施してある。それぞれ独立に発表した論文なので、部分的に重複している箇所があることを予めお断りしておく：

第 2 章：「日韓の夫婦間の呼びかけ表現 ―先行研究の問題点と今後の展望―」『論文集』2, 金沢大学経済学部社会言語学演習, 2007, pp. 85-96.

第 3 章：「呼びかけ表現を好む韓国人、呼びかけ表現を避ける日本人 ―コンテクスト化の合図という観点から―」『韓国語学年報』4, 神田外語大学韓国語学会, 2008, pp. 21-31.

第 4 章： "Comparison between Korean and Japanese address terms as contextualization cues in husband-wife's dialogue." Paper presented at the 16th International Circle of Korean Linguistics (ICKL), New York, 2008 (Published in *Inquiries into Korean Linguistics Ⅲ*, 2008, pp. 377-387).

第 5 章： "Can fillers function as contextualization cues in a Japanese conversation? – Based on comparison of address terms in Japanese

and Korean –." Paper presented at the 10th Annual International Conference of the Japanese Society for Language Sciences (JSLS), Shizuoka, 2008.

第 6 章 : "A Contrastive Study of Metacommunicative Functions of Address Terms between Husband and Wife in Korea and Japan." Paper presented at the 18th International Congress of Linguists (CIL), Seoul, 2008 (To appear in *The Congress Book of the 18th CIL*).

第2章 日本人夫婦間および韓国人夫婦間の呼びかけ表現に関する先行研究[1]

2.0. はじめに

本章では、日本人夫婦と韓国人夫婦の呼びかけ表現に関する先行研究に基づき、両国の夫婦が使用する呼びかけ表現の種類を年齢別および場面別にまとめる。先行研究によっては夫婦の年齢を考慮した研究や夫婦がいる場面（第三者の有無）を考慮した研究など様々な形で調査を行っているが、本研究ではそのような先行研究を網羅的にまとめた。また、年齢と場面を共に考慮してない先行研究については、呼びかけ表現の種類だけをまとめることにする。様々な先行研究の結果を総合的にまとめることによって日本人夫婦と韓国人夫婦の呼びかけ表現の種類を明らかにする一方、研究間の矛盾や問題点を抽出し、それに基づいて今後の研究の展望を試みる。

2.1. 目的および調査方法

2.1.1. 目的

呼称表現はコミュニケーション行動においてとても重要な役割を果たしている。なぜなら、参加者どうしの社会的・心理的距離がそこに現われ、またその表現を適切に使用することによって、相手との距離を調節し、あるいは第三者に対して関係がそのようなものであることを提示できるからだ。このような呼称表現には言及表現と呼びかけ表現の二つの側面がある。前者については、他人に自分の夫のことを話す時、話し相手が目上の人であるかどうかによって「主人」「だんな」などで使い分けることがこの例となる。後者については、普段自分の夫を呼ぶ時、名前の「○○ちゃん」と呼ぶ人も、子供と一緒にいる場合は「お父さん」と、また口論中には「あなたねえ」と呼ぶことが当てはまる。このような場合、夫は自分の妻にい

[1] 本章の一部は尹（2007）に基づいている。

つもの呼称である名前の「○○ちゃん」ではなく「あなたねえ」と呼ばれたら、妻の機嫌が悪いと感じ取るかもしれない。特に夫婦間の呼びかけ行動はほとんど毎日行なわれ、ある特定の呼びかけ表現が習慣となっている可能性が高いが、日本人と韓国人の夫婦は場面によって異なる呼称表現を使い分けているようである。

このように、日本人と韓国人が夫婦間の呼称表現を場面ごとに使い分ける原因はどこにあるのか。従来の研究ではどちらかというと夫や妻を第三者に対して言及する時の言及表現に注目している。そのような研究によって表現のバリエーションとその選択は自分と配偶者と第三者との上下親疎にその原因があることがある程度明らかになってきた。ところが、直接的に相手に呼びかける呼びかけ表現については、それが話し相手の行動を調節する機能をもつという点で極めて重要な対象であるにもかかわらず、これまでその使用にあまり関心が向けられてこなかった。

近年、日本と韓国で共通する社会的現象の一つとして、女性の社会的地位の漸次的上昇をあげることができる。女性も、男性と同等の教育を受けるようになり、女性の就業率も増大し、経済的独立が可能になった。それにしたがい、日韓両国での夫婦関係にも変化が見られるようになった。その変化は夫婦間の呼びかけ表現の使用にも影響を与えているようである。例えば、日本の若い夫婦どうしは伝統的な呼び方である「お前」と「あなた」の代わりに、お互いに名前で呼びあうことが多くなった。一方、韓国では昔からの「여보 yeobo」や「당신 dangsin」の代わりに、結婚する前の恋愛時代の呼び方を使う。つまり妻は自分より年上の夫に対して親族用語の「兄」を表す呼び方「오빠 oppa」を、夫は妻に対しては名前を使って呼ぶ夫婦が増えてきている。

本章の目的は、①先行研究に基づいて、日本と韓国の夫婦間の呼びかけ表現を年齢と場面による変異という視点から整理することによって、先行研究の問題点をさぐり、②今後の研究の可能性を展望することにある。

2.1.2. 調査方法

本章は日韓の夫婦間の呼びかけに関する展望を行うため、まず、従来の先行研究に基づいてその成果を日本人夫婦と韓国人夫婦に分

けてまとめる。次に両国の夫婦間の呼びかけを年齢と場面という二つの視点から整理する。調査対象となる先行研究は日本の夫婦間の呼びかけを扱った米田（1986）と韓国の夫婦を対象とした李玉連（1987)、それに日韓両国を比較した韓先熙(1994)・韓先熙(1996)、李庸悳（1998)、홍민표（1999）である。これらの研究すべてが年齢と場面ごとの呼びかけ表現の変異を同時に調査しているわけではなく、年齢別調査だけを行った研究もあれば場面別調査だけを行ったものもある。そこで、各研究の中で関係する部分、つまり、年齢を考慮した論文は年齢別のまとめで取り上げ、場面を考慮した論文は場面別のまとめで取り上げた。

2.2. 日本人夫婦間の呼びかけ表現

本節では、日本人夫婦が実際にお互いをどう呼びあっているのか、その呼びかけ表現は、年齢および場面ごとにどう変わるのかを先行研究に基づいてまとめる。

<表 1>は先行研究の調査結果に基づいて、日本人夫婦の呼びかけ表現をまとめたものである。研究によって年齢が明示されていたものもあれば、明確ではないものもあったため、年齢別のものと年齢が明確ではないものを区別して表わした。また、地域についても研究によって異なっていたので、首都圏の結果と地方の結果を区別した。つまり、表の 20 代と書いてある欄のバリエーションは首都圏に住んでいる 20 代夫婦の結果である。

	妻→夫	夫→妻
20代	あなた、愛称、名前＋ちゃん、おとうさん、パパ	名前、愛称
30代	あなた、おとうさん、名前+ちゃん、名前+さん、パパ、愛称	あなた、愛称、名前+ちゃん、おかあさん、名前、おい、ちょっと、おまえ、ママ、きみ
40代	あなた、おとうさん、愛称、名前+さん、パパ、名前+ちゃん、名前、ちょっと	おばちゃん、おまえ、きみ、おかあさん、おい、おい ちょっと、名前、ママ、名前+ちゃん、名前+さん

50代以上	おとうさん、あなた、パパ、名前+さん、じいちゃん、ちょっと、とうちゃん	おかあさん、おまえ、名前、ママ、あんた、おい、きみ、名前＋さん、かあちゃん、ちょっと、ばあちゃん
地域や年齢区分不明	あなた、名前＋さん、愛称、名前＋ちゃん、名前＋君、おとうさん、おとうちゃん、パパ、ねえ、あだ名、ねーちょっと、じいちゃん、おっちゃん、ねーあのね、ちょっと、とうちゃん、おど、あんた、おめさん	あなた、おまえ、名前、愛称、名前＋さん、名前＋ちゃん、おかあさん、おかっちゃん、ママ、おい、あだ名、ちょっと、あっちゃん、ねーあのね、かあ、名前＋君、ねー、奥様、こら、かあちゃん、ばあちゃん、ユー、おっか、おか、おめえ、あんた

＜表 1＞先行研究からまとめた日本人夫婦の呼びかけ表現

2.2.1. 年齢による差異

話者の年齢が呼びかけ表現の使用と相関関係を持っているのは確かである。日本人の夫婦がお互い相手を直接呼ぶ時の表現を年齢別に調査した研究には李庸悳（1998）がある。本節では李庸悳（1998）の研究を取り上げる。李は福岡県大木町の 60 軒の家庭を対象に 1994 年 10 月から 1994 年 12 月まで直接調査を行った。

李庸悳（1998）の結果をみると、日本人の夫婦は名前、応答詞（「おい」「ねー」「ちょっと」など）、親族名詞（「お父さん、お母さん」など）、代名詞（「あなた」「お前」など）など様々な言葉でお互いに相手を呼んでいることが分かる。特に親族名詞をみると、自分の配偶者を子供の視点から呼ぶ傾向があって、その中でも「お父さん」と「お母さん」という言葉が圧倒的に多い。

年齢別に見たときに目立つ特徴は、60 代以上の夫婦の間では、相手を「じいちゃん」や「ばあちゃん」と呼んでいる人がいるということである。それは 50 代以下の若い夫婦の間では全く見られない。また、20 代や 30 代のような若い夫婦は配偶者を「おとうさん」や「おかあさん」のような親族名詞と共に、「名前」「名前＋さん」「名前＋ちゃん」のように名前を使って呼んでいる人も多い。このような結果から李庸悳（1998：100）は鈴木（1973）を引き合いに出して、日

本人の夫婦は様々な呼称で相手を呼んでいるが、特に家庭の中の最年少者の視点での親族名詞で呼ぶのが、一般的な呼称の傾向であると述べている。

しかし、この調査の結果だけで、日本の全般的な傾向を示すには少し無理があろう。言い換えれば、1994 年ごろ日本全国の夫婦が必ずしもこのように呼び合っていたとは言えないだろう。これは日本のある町の傾向とは言えようが、日本の全体的な傾向ではない。言葉は様々な要因によって異なり、地域もその主な要因の一つだからである。そしてもう一つこの調査で疑問に感じられることは調査対象となった夫婦の数に一貫性がないことである。多く使われている呼称を年齢別に調べる際に必ず整えられる必要のある年齢別調査対象者数に、かなりの差異が認められるのである。李庸憙の調査対象者は 40 代が 83 名で一番多い反面、70 代以上が 21 名、20 代は 11 名である。最近 20 代を過ぎて結婚をする人が増えるなど、現実的に中年の夫婦より若い夫婦の数が少ないのは事実であろうが、特にその種類が多様な呼称の調査においては対象者数を同数にするよう調整したうえで調査を行うべきであった。人数が多ければ多いほど呼称のバリエーションが多くなるのは当然予想されることであるからだ。

2.2.2. 場面による差異

個々の話し手は一般に、日常生活の多様な場面に応じて、その場面にもっともふさわしい言葉を選択する。それは、話し相手が違えば当然のことであろうが、もし相手が同じ人物であっても、場面の変化によって変わることもある。実際日本の夫婦の呼称もその場面によって様々な形で現れる。ここでは、子供が目の前にいる場面といない場面、通常の場面と口論中の場面で用いられる夫婦の呼称の表現を先行研究に基づいてまとめる。

2.2.2.1. 子どもの存在の有無

米田（1986）と홍민표（1999）は日本の夫婦の呼称を二人だけでいる場合と子供の前という二つの場面に分けて記入式アンケート法で調べた。二つの研究とも夫婦の年齢は考慮されていない。米田は 1986 年 5 月に首都圏に住む夫婦 185 組を調査対象にした。対象の中

には特に私立女子大学生の両親や朝日カルチャーセンターの受講生とその夫が含まれている。홍민표は1998年11月から1999年5月まで日本人262名を対象にアンケート調査を行った。対象となった人々の居住地は東京・大阪・北九州の3地域でその比率はそれぞれ13.9%・69.2%・16.9%である。また、調査に応じた妻の職業は主に専業主婦や公務員が多い。홍민표は子供がいる夫婦だけを対象にしている。したがって、正確な比較ができるようにここでは、米田の結果のうち子供がいる夫婦の場合だけを取り上げることにする。

まず、米田（1986）によると、妻が夫を呼ぶ時一番多く使う呼称は二人だけの場面と子供がいる場面ともに「おとうさん」が一番多い。しかしその比率はかなり異なり、前者は27.1%、後者は44.1%である。そして次に多いのは前者が「ねえ、ちょっと」のような応答詞（22.2%）だった半面、後者は子供の視点からの呼称である「パパ」（27.1%）である。これを見るとたしかに会話の場面において第三者（子供）が隣にいるかどうかは夫婦の間の呼称にかなり影響を与えているようである。子供の前では親族名称が多く使われている。それは夫が妻を呼ぶ時にも当てはまり、二人だけの場合は妻を名前だけで呼んでいると答えた人が24.6%で一番多く、「おかあさん」と呼んでいると答えた人は16.1%である。ところが、子供の前では名前だけで呼ぶと答えた人はわずか13.6%で、「おかあさん」と呼ぶ人が33.1%で一番多くなり、逆転の現象が見られる。

홍민표（1999）の結果も同じ傾向を表している。妻が夫を呼ぶ時、二人だけの場合であれその場に子供がいる場合であれもっとも多く使われているのは「おとうさん」であるが、その比率は55.4%と77.7%でかなりの差がある。夫が妻を呼ぶ時は米田の結果と少し異なり子供の有無に関係なく「おかあさん」がもっとも多く使われているが、その比率は妻の場合と同じく二人だけの場合24.8%から子供がいると46.9%に増加する。

米田（1986）と홍민표（1999）の調査は、ほぼ類似の結果を示している。このことから、夫婦間の呼称は二人だけの場合と子供が目の前にいる場合によってそれぞれ異なり、子供がいる場面では「おとうさん」や「おかあさん」のような、子供が自分の両親を呼ぶ際に用いる親族名詞で呼ぶ傾向があることがわかる。しかしながら、これが現実を反映しているとは限らない。両研究とも、ある特定の地域における特定の職業の人を対象に実施した調査だが、それに基

づいて、その結果が日本の全体的傾向であると述べている。もし他の地域について、異なる職業を持つ人を対象に同様の調査を行えば、違った結果が得られた可能性もある。また、両研究では全く扱われていない新しい言葉で自分の配偶者を呼ぶ夫婦が存在する可能性もある。そして夫婦や子供の年齢の考慮も必要であろう。例えば子供が幼稚園生か大学生かによって異なる呼称を選択する可能性が十分にあるからだ。

2.2.2.2. 口論中

米田（1986）では、さらに口論中に自分の配偶者をどう呼ぶかも調査されている。その結果は、対称代名詞（妻：44%、夫：48%）、名前（妻：20%、夫：18%）、父称または母称（妻：18%、夫：5%）で、対称代名詞の割合が顕著に多くなっている[2]。具体的には妻が使うのは「あなた」がほとんどで、夫の場合は「おまえ」（32%）、「あんた」（9%）、「きみ」（6%）などが含まれている。

夫婦が口論中になぜ相手を対称代名詞で呼ぶのであろう。なぜ妻はほとんどの場合「あなた」だけなのに夫の場合はいろんなバリエーションが現れるのであろう。米田はこのような疑問点について考察していない。日本語母語者ではない筆者はむしろ子供がいる場合といない場合の呼称の違いはある程度理解ができるものの、口論中に夫婦とも主に対称代名詞を使うという結果に違和感を覚え、興味を持った。先行研究では、夫婦の呼びかけ表現は、子供や夫婦の両親や会社の上司など第三者を配慮した場合に呼びかけ表現を変える。つまり、ポライトネスという側面から考察をしてきたが、そのほかに呼びかけ表現は夫婦の感情を伝える手段になりうることに改めて気づかされたからである。

2.3. 韓国人夫婦間の呼びかけ表現

本節では韓国人の夫婦がお互いに相手をどう呼ぶのかを先行研究に基づいてまとめる。韓国人夫婦も年齢や場面などによって様々な呼称を使っているので、日本人夫婦の場合と同じく年齢別と場面別

---

[2] 本文の中の「対称代名詞」「母系」などの表現は「米田」の用いた表現をそのまま使ったものである。

に分けて述べることにする。

	妻→夫	夫→妻
20代	자기, 이름+씨, 이봐요, 여보, 저좀 봐요, 있잖아요, 아빠, 오빠, 아이이름+아빠	여보, 어이, 이봐, 여봐, 야, 아이이름+엄마, 자기, 이름+씨, 이름+아(야)
30代	아이이름+아빠, 여보, 자기, 아빠, 당신, 이름, 이름+씨, 보세요	여보, 아이이름+엄마, 자기, 엄마, 당신, 이름, 이름+아(야), 이름+씨, 아이이름+아(야)
40代	여보, 당신, 아이이름+아빠, 아빠, 자기, 이름, 이름+씨, 보세요, 아이이름+아버지	여보, 당신, 아이이름+엄마, 자기, 이름, 어이, 이름+씨, 이봐, 이름+아(야)
50代以上	여보, 당신, 아빠, 이름, 자기, 손자/손녀이름+할아버지, 영감, 아이이름+아빠, 이름+씨, 아이이름+아버지, 보세요	여보, 당신, 아이이름+엄마, 이름, 손자/손녀이름+할머니, 자기, 어이, 아이이름+아(야), 임자, 이봐
地域や年齢区分なし	당신, 자기, 이름+씨, 아빠, 아이이름+아빠, 아이이름, 아이이름+아버지, 여보, 저기, 이봐요, 예, 보소, 보이소, 아이이름+아부지, 아저씨, 이녘, 봐요, 영감, 이봐요, 손주이름+할아버지, 있는교, 영감님, 손주이름+할배	당신, 자기, 이름+아, 이름, 이름+씨, 애칭, 아이이름+엄마, 아이이름+아, 여보, 어이, 별명, 임자, 보래이, 마누라, 밥쟁이, 야, 사모님, 아줌마, 할멈, 중전, 어요, 봐라, 할매, 할멈, 여편네, 꼬쟁이, 손주이름+할멈

<表 2>先行研究からまとめた韓国人夫婦の呼びかけ表現

<表 2>は、**<表 1>**と同じく先行研究の調査結果に基づいて、韓国人夫婦の呼びかけ表現をまとめたものである。研究によって年齢が明確に示されていたものもあれば、明確ではないものもあったため、**<表 1>**と同様に年齢別に行った調査と年齢が明確ではないものを区別して表した。また、地域についても研究によって異なっていたので、首都圏の結果と地方の結果を区別した。つまり、表の20代と書いてある欄のバリエーションは首都圏に住んでいる20代夫婦の

結果である。

2.3.1. 年齢による差異

韓国の夫婦の呼称を年齢別に調査した研究には、李玉連（1987）と韓先熙（1994）・韓先熙（1996）と前節で扱った李庸憙（1998）がある。

李玉連（1987）は1986年9月から11月まで韓国の仁川・京畿道・光明市・松炭市・ソウルに住んでいる20代から60代の夫婦を対象にアンケート調査を行い、その結果を年齢別に考察している。李玉連によると韓国の20代の夫婦間の呼称の特徴は、妻を呼ぶ言葉は「여보 yeobo；〔元々は「すみません」や「ねえ」「ちょっと」のように人に声をかける時の呼称であったが、現在、夫婦間の呼称として定着している言葉である〕」が代表的呼称で、夫を呼ぶ言葉は「자기 jagi；〔もともと再帰代名詞が二人称に転じ、さらにまた呼称になったものである〕」と「名前＋씨 ssi；〔日本語の「さん」のように相手を呼ぶ時名前の後ろに付けるが、日本の「さん」とはその使い方に少し違いがある[3]〕」が代表的である。30代は妻を呼ぶ時「여보 yeobo」と「子供の名前＋엄마 eomma；ママ」、夫を呼ぶ時「子供の名前＋아빠 appa；パパ」と「여보 yeobo」の順で多く使われていた。40代では夫は妻をほとんど「여보 yeobo」で呼んでいて、妻は「子供の名前＋아빠 appa」と「여보 yeobo」が同じ頻度で使っている。そして50代と60代の場合は、夫も妻も特に呼称を使わないという人が一番多く、呼称を使っている人の中では夫と妻共に「여보 yeobo」で相手を呼び、他の呼称は見られない傾向がある。

次に韓先熙は「韓国では夫をどう呼ぶか」（1994）においてソウル首都圏に住む主婦122人を対象に調査し、「夫が妻を呼ぶ時」（1996）

[3]日本語の「さん」は、名字の後に付け、例えば「田中さん」と呼ぶことができる。ところが、韓国語の「씨」を名字の後に付けるのは、一般に、男性の非専門職（単純労働など）従事者を呼ぶ場合に限られる（박 1997：510）。また、「さん」は「お医者さん」「学生さん」など職業名にも付けることが可能であるが、それに対応する韓国語表現「의사씨 uisassi」「학생씨 hagsaenssi」は使用不可能である。さらに日本語では、大学の同級生どうしが名前の後だけに「さん」を付け、たとえば「ともみさん」と呼ぶことができるが、韓国語で同じようにして「Sumi씨 ssi」と呼ぶのは不自然である。このように、韓国語の「씨」と比較して、日本語の「さん」はその使用範囲がかなり広いといえる。

においてソウル首都圏に住む男性 106 人を対象に調べた。まず妻が夫を呼ぶ時に一番多く使われる表現を年齢別にみると 20 代だけは「자기 jagi」が一番多いが、30 代以上は「여보 yeobo」の使用率が一番高くなる。これは夫が妻を呼ぶ時も同じで、20 代の夫は自分の妻を「자기 jagi」で呼んでいる人が一番多く、30 代以上は「여보 yeobo」で呼んでいる人がもっとも多い。

李庸悳（1998）は 1994 年 10 月から 12 月まで韓国の大邱（デグ）のある大学の学生を対象に自分の両親などが家庭で使っている夫婦の呼称をアンケート形式で調べた。李庸悳によると 20 代の男性（「어이 eoi」：目下を呼ぶ語；おい、「야 ya：呼びかけの意を表す助詞」[4]）と 40 代の男性（「어이 eoi」）と 60 以上の夫婦を除いて、どの世代の夫婦もお互いを「여보 yeobo」で呼んでいる人が一番多い。そして 60 代以上の夫婦は応答詞や「おばあちゃん」「おじいちゃん」や「孫の名前＋おばあちゃん、おじいちゃん」にあたる呼称の比率が高くなるのが目立つ。

上で扱った 3 つの論文を夫婦間の呼称について比較してみると、「여보 yeobo」という言葉を男女共に頻繁に使っていること以外に共通点がない。李玉連（1986）と韓（1994）だけを見ると 20 代の妻が夫を呼ぶ時は主に「자기 jagi」という言葉で呼ぶと報告されているが、李庸悳（1998）の調査ではそれとは違う結果が出ている。李玉連と韓先熙の調査時期の差は相当程度あるが、韓先熙と李庸悳の調査時期はほぼ同じである。結果においてこのような差が出たのは、ソウル付近と大邱付近という地域的要因が影響を与えたと考えられる。しかしながら、ほぼ同一地域を調査対象としている李玉連と韓先熙の結果がすべて同じパタンを表しているわけでもない。したがって、ここでソウルと大邱という二つの地域を比較して地域差の問題として扱うことは有意味ではなかろう。

また、各論文の調査方法から、結果の信頼性を低める要因がいくつか認められる。李玉連はアンケート調査を自分の学生に課題として実施し、李庸悳は自分の学生に対して対面調査を行っている。大学という制度において学生が教員に対して、率直に家庭内の状況を答えられるかどうかという社会的条件も考えるべきであろう。韓は調査対象が全て主婦に限られているが、言葉に関わる要因には職業

[4] 民衆書林編集局編『ＮＥＷポータブル日韓・韓日辞典』三修社, 2004, p.638。

による影響の可能性もあり、全ての妻が主婦であるわけでもないので、職業や学歴を考慮した調査が行わなければならないだろう。

2.3.2 場面による差異

韓国の夫婦の呼びかけ表現を場面別に調査した研究には韓先熙（1994；1996）と홍민표（1999）がある。両研究とも日本の夫婦の呼びかけの場合と同じく、夫婦が二人きりの時と子供の前という二つの場面でお互いをどう呼びあうのかをアンケート調査した。

韓（1994）は前節で紹介した夫婦の年齢別呼びかけ調査の他に場面別の調査も行っているが、調査対象は年齢別調査の場合と同じである。「韓国では夫をどう呼ぶか」（1994）ではソウル首都圏に住む主婦 122 人を対象に、「夫が妻をどう呼ぶ時」（1996）はソウル首都圏に住む男性 106 人を対象に調査した。韓（1994）によると、二人だけの場合妻が夫を呼ぶ表現は「여보 yeobo」が 48.4%で一番多く、次が「子供の名前＋아빠 appa」で 25.2%であった。一方子供の前で一番多く使われる呼びかけ表現は、「子供の名前＋아빠 appa」が 46.3%、「여보 yeobo」が 41.1%を示し、ほぼ同じ比率であることが分かった。そして韓（1996）の夫が妻を呼ぶ時の調査結果を見ると、二人だけの場合は「여보 yeobo」が 50.6%で一番多く使われ、次に「子供の名前＋엄마 eomma」が 24.1%であった。そして夫が妻を呼ぶ時は若干比率の違いはあるが、子供の前でも二人きりの場合と同じく「여보 yeobo」が 46.0%で一番多く使われていた。次に多く使われたのは「子供の名前＋엄마 eomma」の 32.2%である。

홍（1999）も韓国の夫婦の呼びかけ表現を二人だけの場合と子供が目の前にいる場合に分けてアンケート調査している。調査対象はソウルと大邱在住の男性 133 名と女性 100 名である。男性の地域の比率はソウル 21.8%と大邱 78.2%、女性の居住地域比率はソウル 24.0%と大邱 76.0%である。男性の職業は公務員が 36.1%で一番多く、女性は教師の 40.0%が一番多い。홍（1999）の調査結果は韓（1994；1996）とは調査時期のズレがそれほどないにもかかわらず少し違う様相を呈している。

홍（1999）の妻が夫を呼ぶ時の結果を見ると、二人だけの場合「여보 yeobo」と「자기 jagi」が同じく 27.3%で一番多く使われているが、韓（1994）では多くは使われていなかった「자기 jagi」という表現

が「여보 yeobo」と同じ比率となっている。「子供の名前＋아빠 appa」は 22.2%である。子供の前では、「子供の名前＋아빠 appa」が 41.0%で一番多く、「여보 yeobo」が 27.0%でその次である。しかし「자기 jagi」は 9.0%でその使用率が大幅に減っている。一方夫が妻を呼ぶ時の홍（1999）の結果を見ても、韓（1994；1996）の結果とは少し異なる。韓（1994；1996）は夫の場合、二人だけであれ子供の前であれ妻を呼ぶ時は「여보 yeobo」が一番多く使われているという結果が出ている。ところが、홍（1999）の結果では二人きりの時は「여보 yeobo」（27.7%）であるが、子供の前では「子供の名前＋엄마 eomma」と「여보 yeobo」が同じく 28.2%で一番高い使用率を表している。

韓（1994；1996）と홍（1999）の結果のズレの原因を調査方法から推測してみると、明らかに違うのは女性の職業である。韓（1994）は全て専業主婦を対象に調査を行っているが、홍（1999）では主婦の比率は 21.0%に過ぎない。言い換えれば、夫婦間の呼びかけは職業によって影響を受けている可能性がある。ところが、韓（1994；1996）と홍（1999）は調査対象の職業の違いについては全く考慮していない。

2.4. 先行研究の問題点および今後の課題

先行研究の問題点は調査方法および調査結果のまとめ方にあると考えられる。今までの先行研究はほとんどアンケート調査という問題紙記入方法を採用しているが、アンケートという方法は夫婦間の呼称を調べるのに適切であろうか。アンケートから得られた結果が現実を反映しているかどうかは検討の余地がある。アンケート法は一度に大量のデータを収集でき、精密な統計分析を行うことが可能であるなどの長所がある反面、得られたデータは自然談話ではないので、この結果を変異（バリエーション）の実態とするのには問題があろう（松田 2001：125-126）。むしろ変異に関する話者の意識と考えたほうがいい。

そして、そのアンケート調査においても、言葉の変種に関わる社会的要因（出身地・居住地・職業・学歴・階層・地位など）や心理的要素（その場での心理的状態など）が考慮されていない。実際にアンケート対象者の居住地や職業が異なるため、本章で取り上げた各先行研究は、その結果も当然のことながら異なる。ある特定の地

域に住む人達やある特定の職業を持っている人達を対象に調査して得られた結果をもって、日本全体または韓国全体の傾向であると一般化するには無理があろう。

また、調査結果の分析方法にも疑問点が認められる。日本語と韓国語両方とも夫婦間の呼びかけ表現のバリエーションが多様であるため、ほとんどの先行研究が呼びかけ表現の種類を単純に「親族名詞」「名前系」「応答詞」などに分類している。しかし、バリエーションが多様であるからこそ、このような単純な区分で十分に捉えられない側面も生じる可能性がある。例えば、同じ親族名詞でも「お父さん」「お父ちゃん」「父さん」「父ちゃん」「パパ」は少しずつニュアンスが異なる。名前についても「さん」と「ちゃん」のいずれをつけるのかによって、あるいは呼び捨てにするかによっても違いが生じる。応答詞の「おい」と「ねえ」には、そもそもニュアンスの違いがある。これらの差異には、ポライトネスの視点からコミュニケーション機能上無視できない関与的な意味があると考えられる。

今までの先行研究はどちらかというと、夫婦間の直接的呼びかけ表現よりも他者に対して配偶者に言及する時の呼び方に着目した研究が多かった。夫婦間の直接的な呼びかけを扱った研究はほとんどなく、その用語や研究方法についても統一したものはない。しかし、本章でも触れたように米田（1986）は、口論中の日本人夫婦間の呼びかけ表現を調査したが、その結果は通常時の呼びかけ表現とは明らかに違っていた。これは場面によって変わる話し手の心理的状況が呼びかけ表現の選択にどう反映されるのかについて、その変化の可能性を示唆したものと言える。話し手の心理的状況によって相手への態度が変わるのであれば、呼びかけ表現の選択にも変化が生じるはずである。このような視点から今後はさらに、口論中だけでなく様々な異なる場面で夫婦間の呼びかけ表現の変化を調査することが必要となろう。

また、先行研究では不十分であった、社会的・心理的要素を基本的に考慮した上での実態調査が求められる。特に夫婦間の呼びかけ表現の歴史的変化や場面的変化に着目して日・韓の呼びかけ表現を比べる際に、その背景として現代の日本社会と韓国社会の夫婦関係の異同を考慮する必要がある。このような研究によって得られた成果は、日本人と韓国人の夫婦間以外の一般的な呼称にもあてはまるかどうかについても検討していく必要がある。こうした方向での調

査は日韓両国の相互コミュニケーション行動分析の基礎となりうるはずである。

*

以上のような結果に基づき、次章では、ハリウッド映画、日本と韓国の映画やドラマの夫婦の会話を資料とし、日本人夫婦と韓国人夫婦の呼びかけ表現を会話での使用頻度やバリエーションを中心に比較分析する。

第3章　夫婦間の呼びかけ表現の使用頻度および種類の日韓比較[5]

3.0.　はじめに

本章では、日本人夫婦間と韓国人夫婦間の呼びかけ表現を使用頻度とバリエーションに着目して比較する。調査資料は、夫婦が主人公であるハリウッド映画や日本と韓国の映画やドラマである。この調査によって、会話における呼びかけ表現がメタコミュニケーション的機能をもちうることを示す。

3.1.　目的

日本人の夫婦の多くは、お互いをそれぞれ「お母さん」「お父さん」という親族名称で呼ぶ。たとえ夫婦に子どもがいない場合であってもそのように呼ぶことがある。ところが、韓国人夫妻の場合、日本と同じ親族名称でお互いを呼び合うことはめったにない。そのかわりに、韓国人の場合、とりわけ若い妻は、夫を「お兄さん」という意味を持つ「오빠 oppa」という別の親族名称を使って呼ぶことが多い。これは日本の夫婦では見られない現象である（洪 2007, 滝浦 2007, 尹 2007)。一般に日本語と韓国語は類似の親族名称体系をもっていると言われるが、夫婦が使う呼びかけ表現は両言語でかなり異なっていることがわかる（한 2006)。また、夫婦間で使われる呼びかけ表現の量と種類についていえば、韓国語は日本語より豊富であるような印象を受ける。

実際に日本語と韓国語のTVドラマの会話を比較してみると、呼びかけ表現の使用に違いがあることに気づく。韓国ドラマの会話には多様な呼びかけ表現が頻出するが、日本のそれにはあまり見られない。なぜ韓国語では呼びかけ表現が多様で、なおかつ出現頻度も高いのだろうか。それは、呼びかけ表現が、ある種のメタコミュニケーション的機能をもっているからだと推測することができる。すな

[5] 本章は『韓国語学年報』第4号（神田外語大学韓国語学会編）に掲載された小論（尹 2008a)を基礎にしている。

わち、呼びかけ表現は、何らかの形で、話し手が自己の発言の意図を聞き手に示唆する手段、つまり「コンテクスト化の合図（contextualization cues)」(Gumperz 1982) として使われていると仮定できる。

本章では、映画やTVドラマにおける日本人夫婦間と韓国人夫婦間の会話を通じてこの仮説を検証する。談話分析において、映画やTVドラマがその資料になりうるのかという問題については議論が多い。映画やドラマなどはあくまでもフィクションであり、例えば日本のドラマが日本の社会を反映するとは必ずしも言えない。むしろそのドラマや映画の脚本家の個人的特性が反映される可能性も高いのである。それにもかかわらず、本章において映画やドラマを資料として使う積極的な理由は、日本語と韓国語の呼びかけ表現の使用頻度やバリエーションの比較によって量的な差異を示したいからである。この調査は実際の夫婦の会話を調査するための前段階の予備調査という位置づけである[6]。

いろいろな人間関係がある中で、とくに夫婦間の会話に着目した理由は第 1 章でも述べたように、たとえば、父と息子といったような、社会的に非対称な関係においては、ある程度決まった呼びかけ表現が相互に用いられる傾向があり、その使用が制約されている。ところが、夫婦のように原則的ではあるが社会的に対称関係にある人物間では、会話場面によってかなり自由度の高いさまざまな表現を使ってお互いを呼び合うことができるからである。

3.2. 先行研究

呼称表現（address terms）には、発話内で言及する時の言及表現（reference terms）と、会話の相手に対して直接呼びかける時の呼びかけ表現（vocative terms）の二種類が区別できる。従来の呼称表現に関する研究では、たいていの場合、言及表現に焦点があてられ、しかもその分類が中心となっていた。この領域に関する代表的な研究と見なされるBraun（1988: 7-14）は呼称表現を①代名詞によ

[6] 井上（2003：23）によると、言語行為としてそれぞれの発話に解釈を加えることは必ずしも 容易なことではなく、現実の会話においては、言語行為の意図もその解釈を保証しないが、映画の中での会話の意図は、ある程度「見えるもの」として構成されているそうである。

る呼び方(pronouns of address)、②動詞形で表わされた呼び方(verb forms of address)、③名詞による呼び方 (nouns of address)の三種類に分類して、夫婦間に限らず、いろいろな人間関係での呼びかけ表現を様々な言語文化圏で調査・分類している。また、今村(1996)はBraun(1988)の分類に基づいて日本語と英語を比較しているが、そのような分類に基づいた単純な種類の比較は、そもそも日本語と英語はその社会的背景も異なれば、言語システム自体も違うので、どのような意味を持つのかが疑われる。

数少ない呼びかけ表現に関する研究のうち、日本と韓国の夫婦間の呼びかけ表現を扱った研究としては、たとえば、米田 (1986)・李玉連 (1987)・韓 (1994)・韓 (1996)・李庸悳 (1998)・홍 (1999)が挙げられる。これらのほとんどは、会話場面において、自分の子どもなど、他者の存在の有無という状況の変化に着目し、夫婦間の呼びかけ表現がどのように変わるかを調べている。たしかに、当該場面における他者の存在の有無によって、呼びかけ表現の選択に影響があることはありうるだろう。しかし、夫婦は二人きりの場合であっても常に同じ呼びかけ表現を用いるとは限らない。その点に着目して、米田 (1986) は口論という場面での夫婦の呼びかけ表現の種類について調べている。しかしながら、この研究は、子供の有無やコンフリクト場面に応じてどのような表現が選択されるのかといった問題設定をしているので、状況や場面と呼びかけ表現とを静的・固定的に捉えようとしている。

果たして、このように場面と呼びかけ表現を静的に捉えるだけでいいのだろうか。例えば、呼びかけ表現はもっと動的に使用されているのではなかろうか。また、上述の米田(1986)の口論場面を例にとれば、感情の激しさによって異なる呼びかけ表現を微妙に使い分け変化させているのではないだろうか。このような観点からの研究は、これまでほとんどなされていないようだ。とりわけ、同一の言語を話し、同一の文化的背景を持つ同一の人間関係にある人どうしが、呼びかけ表現を使い分けるのはどのような意図によるものかについては、全くと言っていいほど注目されていない。

呼びかけ表現が会話の相手に対して注意を喚起する機能を持つことはよく知られている。しかし、この呼びかけ表現は会話の進行中など、対話者をあらためて特定する必要がない場合でさえも多く用いられる。そして、同一関係にある二人であっても、会話の場面に

よってさまざまな呼びかけ表現を用いることがある。以下では、呼びかけ表現が話し手の意図をメタコミュニケーション的に聞き手に伝達する手段となっているという上述の仮説を検証するためにいくつかの会話の調査結果を報告する。

3.3. 調査方法

日本と韓国の夫婦間の呼びかけ表現について、その出現頻度とバリエーションの差異を確かめるために、まず(1) 夫婦が主人公であるハリウッド映画「Fun with Dick & Jane」(2005) の日本語版と韓国語版の字幕を分析する。そして、英語とは別に、(2) オリジナルの日本映画「明日の記憶」(2007) と韓国映画「선물 (ラスト・プレゼント)」(2005) の夫婦間の呼びかけ表現について、それぞれ韓国語と日本語の字幕に訳された時の翻訳率を比較した。この(1)と(2)の調査は、本来なら、発話された呼びかけ表現どうしを比較する必要があるが、入手できた DVD には吹き替え版がなく、字幕による翻訳となっていた。そのため、本稿では便宜的に字幕による呼びかけ表現を比較せざるをえなかった。最後に、翻訳という条件を排除し、より客観的な呼びかけ表現の出現頻度とバリエーションを明らかにするために、(3) 夫婦が主人公である日本の TV ドラマ「今週、妻が浮気します」(2007) と韓国の TV ドラマ「투명인간 최장수 (透明人間チェ・ジャンス)」(2006) のセリフを分析した[7]。

3.4. 結果

3.4.1. ハリウッド映画の字幕訳文の日韓比較

日本と韓国の夫婦呼称のバリエーションと使用頻度を調べるために、ハリウッド映画「Fun with Dick & Jane」(2005) の中で主人公夫婦が使った呼びかけ表現の日本語字幕および韓国語字幕における出現率を調査した。その結果は、**<表 3>**のようになった。「使用頻度」とは、英語の場合は発話された呼びかけ表現の出現回数であり、

[7] この二つのドラマを選んだのは、最新のドラマの中で設定された夫婦の条件(年齢や子供の有無や職業など)が類似しているので、比較可能な呼びかけ表現が多用されていると考えたからである。

日本語と韓国語の場合は字幕の中に現われた呼びかけ表現の出現回数である。「翻訳率」とは、英語で発話された呼びかけ表現の出現回数を 100%にした時の日本語と韓国語の字幕での翻訳割合のことである。最後の「種類」は使用される呼びかけ表現のバリエーションの数である。なお、表の矢印（→）は、呼びかけ表現の使用者と名宛人を示す記号である。たとえば、「夫 → 妻」は夫が妻に対して呼びかけ表現を発しているという方向を表している（以下、同様）。

	夫 → 妻			妻 → 夫		
言語	英語	日本語	韓国語	英語	日本語	韓国語
頻度（回）	33	6	20	53	6	34
翻訳率(%)	—	18.2	60.6	—	11.3	64.2
種類（個）	6	4	3	10	2	4

＜表 3＞映画「Fun with Dick & Jane」(2005) における夫婦間の呼びかけ表現の日本語字幕と韓国語字幕の比較

＜表 3＞を見てまず気づくのは、日本語の翻訳率の低さである。夫が妻を呼ぶときは 18.2%、妻が夫を呼ぶときは 11.3%であり、双方ともに極めて少ないと言える。それを、韓国語の翻訳率と比較してみると、夫が妻を呼ぶときの韓国語の翻訳率は 60.6%で韓国語のほうが 3 倍以上高く、妻が夫を呼ぶ場合も韓国語は 64.2%で韓国語のほうが 5 倍以上高い。

他方、呼びかけ表現の種類に関しては、妻が夫を呼ぶとき日本語は 2 種類、韓国語は 4 種類で、韓国語のほうが 2 倍多いが、夫が妻を呼ぶときは日本語が 4 種類と韓国語が 3 種類で日本語のほうが 1 種類多い。

3.4.2. 日本映画の韓国語訳字幕と韓国映画の日本語訳字幕

日本語および韓国語のオリジナル映画が、それぞれ韓国語と日本語に翻訳される際の、呼びかけ表現の翻訳率を調べるために、日本の映画「明日の記憶」(2007) と韓国の映画「선물（ラスト・プレゼント）」(2005) に登場する夫婦が使用する呼びかけ表現を分析した。**＜表 4＞**と**＜表 5＞**はその結果である。

	夫 → 妻		妻 → 夫	
言語	日本語	韓国語	日本語	韓国語
頻度（回）	3	4	35	21
翻訳率（%）	—	133.3	—	60.0
種類（個）	1	2	4	3

<表 4>日本映画「明日の記憶」(2007) における夫婦間の呼びかけ表現とその韓国語字幕の比較

	夫 → 妻		妻 → 夫	
言語	韓国語	日本語	韓国語	日本語
頻度（回）	21	6	21	5
翻訳率（%）	—	28.6	—	23.8
種類（個）	4	2	4	2

<表 5>韓国映画「선물 （ラスト・プレゼント)」(2005) における夫婦間の呼びかけ表現とその日本語字幕の比較

<表 4>と**<表 5>**を比べると、まず明確な差異が認められるのは、日本の映画「明日の記憶」(2007) で夫が妻を呼ぶのは全部で 3 回だが、それが韓国語に字幕化されたときは 4 回に増えている点である[8]。韓国の映画「선물 （ラスト・プレゼント)」(2005) で夫が妻を 21 回呼んでいるのに対し、それが日本語の字幕では 6 回しか翻訳されていない。妻が夫を呼ぶ場合も日本の映画の音声に対して韓国語では 60.0%の字幕翻訳率を示したのが、韓国映画の日本語字幕への翻訳率は 23.8%に過ぎない。したがって、第 3 言語（英語）の音声を字幕化するときだけではなく、日本映画の韓国語字幕と韓国映画の日本語字幕を比べてみても、夫婦の呼びかけ表現については韓国語より日本語のほうが字幕への翻訳が省略される頻度が高いことが分かる。

3.4.3. 日本のドラマと韓国のドラマ

日本人夫婦と韓国人夫婦の呼びかけ表現の使用頻度と種類をより

[8] 日本の映画において夫のセリフ中に現れたフィラーが、韓国語字幕では呼びかけ表現として訳されたからである。

客観的に確かめるために、日本のドラマ「今週、妻が浮気します」（2007）と韓国のドラマ「투명인간 최장수 （透明人間チェ・ジャンス）」（2006）の中で主人公夫妻がお互いに使用した呼びかけ表現を調べた。それを通してさらに日本と韓国の夫婦の呼びかけ表現の使用頻度と種類について調べた。日本語でもなく韓国語でもない第三の言語で制作された映画の音声が外国語の字幕訳される場合とは異なり、内容の異なる二つのドラマを客観的に比べるのは難しい。しかしながら、その中でも内容の似かよったものを選んだ。日韓両ドラマとも、夫婦が主人公でその夫婦を中心に話が展開される。主人公夫婦は夫・妻ともに職業を持っていて、子供は幼稚園児（日本）と低学年の小学生（韓国）なので、ほぼ同じ年代であるといっていい。

両ドラマの総放送時間に関しても差がある。「今週、妻が浮気します」（2007）が全 11 話（1 話約 1 時間）、「투명인간 최장수（透明人間チェ・ジャンス）」（2006）が全 20 話（1 話約 1 時間）で、後者のほうが 2 倍多い。しかし夫婦間の会話における全てのターンを数え、ターンの数に対して使用された呼びかけ表現の頻度を調べることによってある程度の傾向が分かると思われる。

	「今週、妻が浮気します」（日本）		「투명인간 최장수（透明人間チェ・ジャンス）」（韓国）	
	夫 → 妻	妻 → 夫	夫 → 妻	妻 → 夫
ターン（回）	214	205	503	491
頻度（回）	27	24	231	295
使用率（%）	12.6	11.7	45.9	60.1
種類（個）	4	3	13	18

＜表 6＞ドラマから見る日本と韓国の夫婦間呼びかけ表現の使用率と種類

＜表 6＞は両ドラマを比べたものであるが、夫・妻ともに韓国のドラマのほうが全てのターンに対して使われる呼びかけ表現の使用率がかなり高いことが分かる。まず、夫が妻に対して使った呼びかけ表現の使用率は日本が 12.6%、韓国が 45.9%で、4 倍近く韓国のほ

うが高い。また妻はその差がより明確になり、日本が 11.7%である反面、韓国は 60.1%で、6 倍近く韓国のほうの使用率が高いことが分かる。

他方、呼びかけ表現の種類に関しては日本語の「今週、妻が浮気します」(2007) では、妻は夫を 3 種類の呼びかけ表現を使って呼んでいる。一番多いのは「あなた」(13 回) で、次は「パパ」(7 回)、「ねえ」(4 回) の順である。夫の妻に対する呼びかけ表現は 4 種類で、最も多いのは名前の「陶子」(17 回)、続いて「おまえ」(7 回)、「おい」(2 回)、「なあ」(1 回) の順である。

韓国語の「투명인간 최장수 (透明人間チェ・ジャンス)」(2006) では、夫は妻を 13 種類の表現で呼んでいるが、その中で一番多いのは名前「소영 soyoung」に「-아 a」[9]を付けた形の「소영아 soyounga」(92 回) である。次いで多いのは韓国の夫婦間の呼びかけ表現である「여보 yeobo」[10] (56 回)、性「오 oh」＋名前「소영 soyoung」の「오소영 ohsoyoung」(32 回) の順である。一方、妻が夫を呼ぶ時の表現のバリエーションは 18 種で夫が妻を呼ぶ時より多い。使用率の高い順は、子供の名前「다미 dami」＋パパの意味である「아빠 appa」の形の「다미아빠 damiappa」(112 回)、夫の名前「장수 jangusu」＋「-씨 ssi」[11]の「장수씨 jangsussi」(82 回)、そして第三番目は、性「최 choi」＋名前「장수 jangsu」の「최장수 choijangsu」(25 回) である[12]。

このように、呼びかけ表現のバリエーションについても日本語より、韓国語のほうがきわめて多いことがわかった。

---

9 (人間や動物などを表す言葉の後ろにつけて)目下の人や動物などを呼ぶとき使われる格助詞 (『표준국어대사전』を参照。以下特に説明がない場合はこの出典に基づいている)。

10 夫婦がお互い相手を呼ぶ言葉。

11 依存名詞、(成年になった人の名字や姓名、名前につけて) その人を高めて呼んだり指したりする言葉で、大体同僚や目下の人に向かって使う。

12 本文の例のほかに夫が妻を呼ぶ時「너」「야」「다미엄마」「마누라야」「마님」「화상아」「삐리리야」「오소영씨」「오소영사모님」「사람」があり、妻が夫を呼「당신」「너」「인간아」「야」「놈아」「왠수야」「오빠」「새끼야」「자식아」「바보야」「등신아」「최장수씨」「최장수형사님」「여보」「다미솔미아빠」がある。

3.5. 考察

ハリウッド映画の日本語版と韓国語版を比較した結果、韓国語版では夫婦間の呼びかけ表現が 60%以上字幕として表現されたが、日本語版では 20%以下であることが分かった。このように、オリジナルの英語版の呼びかけ表現が日本語版ではあまり翻訳されない理由を考察するにあたって、井上（2005：47-50）の報告が参考になる。それによると、英語では名を呼ぶことで相手への認識を表示しながら会話するために、またリズミカルパターンを構成するために、呼称はコミュニケーションの資源となっているが、日本語にはそのような目的がないからだと説明している。

しかし、日本語とは文法や敬語システムなどがかなり異なる英語との違いは分かるが、文法や敬語システムなどが似ている韓国語に対してもこのような違いを見せるのはなぜだろうか。それは、韓国語の呼びかけ表現は英語のように会話文の中である種のメタコミュニケーション的な役割を果たしているからだと考えられる。

本調査の結果に関していえば、夫婦間の呼びかけ表現について、使用頻度が高く、バリエーションに関しても日本語より韓国語のほうがかなり豊富であることが証明された。日本人夫婦が相手に対して注意を喚起するときに呼びかけ表現を用いるが、韓国人夫婦は注意喚起をする際はもちろんのこと、それに加えて、すでに会話が進行している最中にも常に呼びかけ表現を使い、しかもさまざまなバリエーションを用いる傾向があることが分かった。それは、第 1 章においてすでに指摘したように、コンテクスト化の合図（contextualization cues）という観点からすると韓国人夫婦は呼びかけ表現で自己の発言の意図を示唆的に表現しようとしているからではないかと思われる。コンテクスト化の合図というのは、Gumperz（1982）によれば、各文が先行あるいは後続する文とどのように関連付けられるのかを、話し手がシグナルし、それを聞き手が解釈する合図のことである。例えば、下の（1）は、「투명인간 최장수（透明人間チェ・ジャンス）」（2006）のあるシーンで、妻は電話に出た夫に対して普段はあまり言わない姓「최 choi」＋名「장수 jangsu」の「최장수 choijangsu」で呼んでいる。それは、これから夫を非難するという妻のシグナルであり、夫にもそれが伝わっている。なお、以下の例では呼びかけ表現を**太字**の*斜体*で表わすことに

する。

(1) 남편:여보세요.
(夫 :もしもし。)

부인: ***최장수***.
(妻 : ***choijangsu***.)

つぎの (2) のやりとりも「투명인간 최장수 (透明人間チェ・ジャンス)」(2006) 一つのシーンで、離婚届を出している夫婦が再び婚姻届を出しに区役所に来ている。

(2) 남편: 여긴 왜 왔어? ***다미엄마*** [13]?
(夫 : ここにはなぜ来たの? ***damieomma***?)

부인: 왜 오긴? 혼인 신고 하러 왔지.
(妻 : なぜって? 婚姻届出しに来たのよ。)

남편: 혼인신고?
(夫 : 婚姻届?)

부인: 그럼 언제까지 이혼한 채 살려고 그랬어?
(妻 : いつまでも離婚したままにしとくと思ったの?)

남편: 아니, 고마워 ***여보***.
(夫 : いや ありがとう ***yeobo***。)

(…)

남편: ***오소영***. 이제 넌 내꺼다.
(夫 : ***ohsoyoung***。もうあんたは俺のものだ。)

부인: 그래, 당신도 이제 내꺼야. 이젠 어디 도망 갈

[13] 子供の名前 (다미)+ママ (엄마)。

생각 하면안돼. 내가 있으랄 때까지 내 옆에 꼭 붙어 있어야 돼. 알았지?
（妻：そう、あなたも私のものだよ。もう逃げようとしないで　私のそばにいつまでもいてね。分かった？）

남편: 어 그럴게.그럴게 ***소영아.***
（夫：うん　そうする。そうする ***soyounga***。）

このシーンで夫は 4 回呼びかけ表現を用い、しかもすべて異なる表現である。区役所に来た理由を子供の名前○○にママを付けた「○○のママ」の意味の「다미엄마 damieomma」を使って尋ねる。婚姻届を出しに来たと聞いて感謝して夫婦専用の呼びかけ表現である「여보 yeobo」を用いて感謝の気持ちを強調するのと同時に尊敬の気持ちを表していると思われる。さらに、「여보 yeobo」から妻のフルネームの性「오 oh」＋名「소영 soyoung」の「오소영 ohsoyoung」に変え、妻が自分の所有物だと述べ、名前「소영 soyoung」に「-아 a」を付けた形の「소영아 soyounga」を使って妻の願いを受け入れるとやさしく普段の呼びかけ表現で応じていると思われる。

このように、韓国人の夫婦間の会話では会話文の文頭や文中、または文末にさまざまな呼びかけ表現を使って話している。つまり、呼びかけ表現が自分の発話意図を明確に伝えるための手段として用いられているのである。

ところで、日本と韓国の TV ドラマを分析した結果、呼びかけ表現の使用について、その頻度とバリエーションの種類以外に、さらに日本語と韓国語の呼びかけ表現の構成に関しても異なるところが分かった。それは、韓国人は呼びかけ表現に形容詞などの付加語をつける傾向があることである。これは、特に手紙やメールを送る際にその違いがはっきり現れる。

例えば、次の（3）と（4）はそれぞれ「今週、妻が浮気します」と「투명인간 최장수（透明人間チェ・ジャンス）」において夫が妻に書いた謝罪の手紙の冒頭部分である。（3）は妻を普通に名前で呼んで手紙を書いているが、（4）はドラマ内で感謝や謝罪の場面で頻繁に使用される「여보야　yeoboya」を「いとしい」という意味の形容詞と一緒に用いている。これは、呼びかけ表現を利用して意図を明

確に、より具体的・積極的に伝えている例である[14]。

(3) ***胸子***へ

(4) 사랑하는 ***여보야***
(いとしい　***yeoboya***　)

夫の手紙やメールの例以外にも、日本のドラマには呼びかけ表現に形容詞などの付加語がつけられた例は一つもない。しかし、韓国の場合は形容詞の使用が頻繁に見られる[15]。例えば、同じ呼びかけ表現（○○）でも、非難する前に用いられる場合は、「悪い○○（나쁜○○）」で呼んだり、依頼の発言をする前には「いとしい○○(사랑하는○○)」で呼ぶことがある。

3.6. まとめ

本章で扱った映画やTVドラマに関する限り、日本人夫婦と韓国人夫婦の呼びかけ表現の使用傾向には確かにその差異が認められた。特に日本人夫婦は韓国人夫婦に比べて、会話中お互いに呼びかけ表現を頻繁には使わず、使用する呼びかけ表現のバリエーションも極めて少ないことが分かった。日本人夫婦に比べて韓国人夫婦が呼びかけ表現を頻繁に使う理由は、いろいろな側面から推測することができる。筆者はその中でも、韓国では呼びかけ表現が談話中、コンテクスト化の合図という機能を持っているという仮定のもとに調べてみた。その結果、韓国人夫婦は会話の進行中常に呼びかけ表現を用い、しかも多様に使い分けていることが明らかになった。呼びかけ表現を使い分けることによって話し手の気持ちや話の内容を聞き手に明確に伝えようと意図しているからである。

しかし、韓国のTVドラマがその韓国社会全体を反映するとは限ら

---

[14] 日本人の夫は、「～へ」のように妻の名前に手紙で用いられる名宛形式を使っている。しかし、韓国人の夫は、「～へ」に相当する韓国語の手紙での形式「～에게」を使わずに、「～야」で妻を呼ぶ形を取っている。

[15] 尹（2008）は日韓のインターネットサイトでのメッセージを比較分析した。インターネットサイト上のメッセージにおいて、日本人に比べ韓国人のほうが呼びかけ表現を頻繁に使い、また文頭に形容詞をつけた呼びかけ表現をたくさん使う傾向があることを明らかにした。

ないので、今後はさらに社会的・心理的要素を基本的に考慮した上での実態調査が求められる。そして、韓国語会話では呼びかけ表現がコンテクスト化の合図の機能を果たすが、日本語会話では呼びかけ表現を用いる代わりにその機能を果たすほかの言語手段があると考えられる。例えば、韓国語には存在しない終助詞や様々な言語的・非言語的手段を用いるのではないだろうか。そして、上例の夫の手紙やメールの例で明らかになったように、韓国人は呼びかけ表現に付加語を使い、呼びかけ表現でより具体的に自分の意図を伝え、さらに発言の意図を明確にしようとしていると推測される。

さらに、このような夫婦間の呼びかけ表現のコンテクスト化の合図という機能を比べる際に、その背景として現代の日本社会と韓国社会の夫婦関係の異同を考慮する必要がある。呼びかけ表現の選択は会話をする人間どうしの社会的地位の差異や親疎に影響を受けるからである。

また、このような研究によって得られた成果は、日本人と韓国人の夫婦間以外の一般的な呼称表現にも当てはまるかどうかを検討していく必要もあろう。こうした方向での調査は日韓両国の相互コミュニケーション行動分析の基礎となりうることが期待される。

*

次章では、映画やドラマではなく実際の夫婦の会話を用いて、コンテクスト化の合図という機能を持っている可能性のある韓国語呼びかけ表現を日本語と比較しながら分析する。

第4章　韓国人夫婦間で使用される呼びかけ表現がもつコンテクスト化の合図としての機能[16]

4.0.　はじめに

本章では、実際の日本人夫婦と韓国人夫婦の会話を比較分析する。ドラマや映画の中の夫婦だけではなく、実際の夫婦においても日本人に比べて韓国人のほうがより頻繁に呼びかけ表現を使うかどうかを調査する。また、日本人に比べて韓国人が会話中呼びかけ表現を頻繁に使う理由は、呼びかけ表現がコンテクスト化の合図としての機能を持つからだという仮説を検証する。それによって、韓国語の呼びかけ表現が単純に注意を喚起するためにだけ使われるのではなく、会話において、コンテクスト化の合図、特に1）自分の感情を伝える2）相手の感情をコントロールする手段として使われることを明らかにする。

4.1.　目的

第3章では、ハリウッド映画や日本および韓国の映画やドラマを用いて、夫婦の呼びかけ表現のバリエーションや会話中の使用頻度を分析した。そして、その結果、日本人夫婦に比べ韓国人夫婦の呼びかけ表現の使用頻度が高く、そのバリエーションも多様であることが明らかになった。本章では、第3章の結果を実際の夫婦の会話から検証し、呼びかけ表現を、例えば、話し手の意図を聞き手に伝えるなど、韓国人はメタコミュニケーション的に使用していることを明らかにする。具体例をあげて説明しよう。

以下の会話は、韓国ドラマ「투명인간 최장수 （透明人間チェ・ザンス）」のある場面から取った。夫の携帯電話が鳴ったので夫が出る。

---

[16] 本章は2008年度国際韓国語学会（International Circle of Korean Linguistics at Cornell University & SUNY at Binghamton）で口頭発表後、同学会編集の *Inquiries into Korean Linguistics Ⅲ* に掲載された小論（Yoon 2008）に基づいている。

夫: 여보세요?
(もしもし?)

妻: 최장수[17]!
(チェ・ザンス)

普段この妻は、自分の夫を「다미아빠 damiappa」[18]または「장수씨 jangsussi」[19]と呼んでいるが、この場面では「최장수 choijangsu」のように夫のフルネームで呼んでいる。これは、後続する妻の発話から夫に対する妻の批判的態度を先取りした合図と見なすことができる。

したがって、韓国人の夫婦の呼びかけ表現は会話中メタコミュニケーション的機能、つまり Gumperz (1982)のコンテクスト化の合図として機能しているという仮説を立てることができよう。本章の目的は、実際の韓国人夫婦の会話を分析し、その仮説を検証することにある。

4.2. 先行研究

この 20 年間、日本と韓国の夫婦間呼びかけ表現については数多くの研究がなされてきた。それらの研究は次のように大きく二つのグループに分けることができる。

1) 分類に基づいた (classification-oriented) 研究
2) 相互行為に基づいた (interaction-oriented) 研究

日本語と韓国語の夫婦間の呼びかけ表現について調査した先行研究には、1)の分類に基づいた研究が多い。先行研究の中で、ドラマの主人公や実際の夫婦が話した談話から自然に出現した呼びかけ表現

[17] 夫のフルネーム。韓国では、自分より目上の人に対してフルネームだけで呼ぶのは一般に認められていない。このドラマでは、妻が夫より年下という設定である。
[18] 다미 dami +아빠 appa. 「다미 dami」は子供の名前で、「아빠 appa」はパパの意味である。韓国では、自分の夫を子 供の名前＋パパのように呼ぶ妻が多い。
[19] 장수 jangsu＋씨 ssi. 「씨 ss」i は日本語の「さん」に似た表現でフルネームや名前の後ろに付けて相手を礼儀正しく呼ぶ時の表現。

を調査した研究はなかった。ほとんどの研究が記入式のアンケート調査方法により、調査対象者に質問し答えてもらった結果だけを扱っている[20]。その中で、米田（1986）は、同じアンケート方式を取ってはいるが、「口論中」という通常とは異なる夫婦の心的状況を配慮した調査を行っている。以下では、従来の研究を5つに分類して紹介した上で、それらの問題点を指摘する。

(A) 洪（2007）、李庸悳(1998)、李玉連(1987)

夫婦の呼びかけ表現を言語学または社会言語学の観点から年齢別に分類し、日本語や韓国語の夫婦間呼称について研究している。

(B) 한（2006）、홍（1999）、韓（1996）、韓（1994）

夫婦間呼称について直接呼ぶ際の呼びかけ表現と第三者に言及する際の言及表現を言語学的または社会言語学的観点から年齢別に分類し、それを日本語と韓国語で比較している。

(C) 김（2004）

김（2004）は韓国人夫婦[21]の呼びかけ表現を結婚する前から新婚時、子供が生まれてからといった時間の経過によってどう変化するかをアンケート方法で調査した。その結果、呼びかけ表現は二人の関係の変化によって変ること、たとえば、親密な関係になればなるほど呼びかけ表現のバリエーションが増加することを明らかにした。

(D) 米田（1986）

米田（1986）は日本の夫婦の呼びかけ表現について研究したが、夫婦二人きりの場合や子供がいる場合と共に、口論時のように心的状況が変わる場面でお互いどう呼ぶかについても調査した。

(E) 尹（2008a）

日本人夫婦と韓国人夫婦のそれぞれの会話における呼びかけ表現の使用頻度やバリエーションの違いに着目し、韓国人夫婦の会話においては呼びかけ表現がコンテクスト化の合図として機能することを示唆した。

---

[20] 例えば、「あなたは、普段夫をどう呼びますか」などの質問である。
[21] 夫婦共に教師であるといった特別な調査対象者である。

(A) と (B) は呼びかけ表現の種類を、言語学的または社会言語学的観点から分類をしたものだ。これらの論文は日本人夫婦と韓国人夫婦の呼びかけ表現について、分かりやすくまとめているが、いくつかの問題点もある。たとえば、一つは、すべての論文がアンケート調査から得られた結果を中心に分析をしていることであり、さらには相互行為の観点から分析を行っていないことである。

(C)は夫婦の呼びかけ表現が時間経過による夫婦関係の親しさの度合いの変化によってどう変わるかを調べたものだ。夫婦間の呼びかけ表現が二人の関係の親密度によって変ることに着眼した点はとても興味深いが、それが時間の経過にだけ注目し、同じ時期であっても状況によって変る人間の心理的関係の変化については調査されていない。

(D)と(E)は呼びかけ表現を分類するだけではなく、夫婦の心的状況によって呼びかけ表現がどう変化するかについても考察している。しかし、米田 (1986) はその結果をアンケート調査から得られた資料にのみ依拠している。そして尹 (2008a) は、フィクションであるドラマや映画の中の夫婦の会話を資料として分析したため、実際の夫婦についても妥当するかどうかという問題が指摘できる。

4.3. 調査方法

ドラマや映画のようなフィクションの会話ではなく、実際の日本人夫婦と韓国人夫婦の会話を比較分析するためには、たとえば隠しカメラのようなものを設置し夫婦の会話を秘密裏に収録する方法が理想的であろう。しかし、そのような方法は倫理上許されないので、ドラマの中のある特定の場面を調査対象者の実際の夫婦に提示し、自分たちの話し方で話してもらうという方法を用いた。

4.3.1. 資料

<表 7>と**<表 8>**は調査対象者の個人情報を簡略に表わしたものであるが、調査対象者は、それぞれ東京を含む首都圏とソウルを含む首都圏に住んでいる 20 代から 30 代までの日本人夫婦 8 組と韓国人夫婦 9 組である。20 代から 30 代といった若い夫婦を調査対象者に選んだ理由は、他の年齢層より様々なバリエーションの呼びかけ表現を用

いる可能性が高いので、限られたサンプル数で最大の結果を得ることができると考えたからである。すべての調査対象者は、短大卒あるいはそれと同等以上の学歴を持ち、恋愛結婚をし、現在子供以外には同居する家族が存在せず、それぞれ韓国語（日本人の場合）と日本語（韓国人の場合）に関する知識はまったくないといった共通点がある。また、調査対象者は調査を終える前に調査の目的については一切知らされていない。なお、調査は複数回にわたって実施された。日本人夫婦は 2008 年 4 月 27 日から同年 5 月 5 日までの間、および 2008 年 12 月 27 日から同年 12 月 30 日までの期間に調査した。そして、韓国人夫婦は 2008 年 3 月 23 日から同年 3 月 30 日までの間、さらに 2008 年 7 月 20 日から同年 7 月 30 日の期間に行われた。

調査対象者の夫婦が日本人 8 組と韓国人 9 組で、その数が少ないと思われるかもしれない。しかし、本研究では、実際の夫婦の会話という入手することがきわめて難しい資料を収集し、それに基づいて分析を試みる。もちろん、記述式アンケートのように多くのサンプル数を一度に得る方法もある。そして、多くの先行研究はアンケート方法をとっている。ところが、第 2 章でも述べたように、アンケート方法から得られた結果は、実際の話のスタイルを必ずしも反映しているとは限らないという問題がある。

メイナード（2004：23-24）によると、談話言語学における分析方法は定性的(qualitative)と定量的(quantitative)分析方法があり、もっともふさわしいのは二つの方法の混合であると主張している。本研究を全体的に見ると、第 2 章と第 3 章では先行研究の調査結果や映画やドラマを資料とした定量的方法を用いた分析を行った。そして、本章と第 5 章では実際の夫婦の自然談話を資料とし、定性的方法で分析を行った。したがって、8 組と 9 組という調査対象者の夫婦の数は、少なく見えるが、検証という目的において十分適切なものであると言える。

	妻	夫	結婚	子供[22]
1	25[23]、大学卒、専業主婦	25、大学院卒、会社員	2007/12	―
2	38、大学卒、専業主婦	39、大学院卒、研究員	1996/10	2(10、7)
3	31、大学卒、会社員	32、大学院卒、会社員	2005/4	―
4	34、大学卒、専業主婦	30、大学院卒、会社員	2001/10	1 (0)
5	38、大学卒、自営業	38、専門学校卒[24]、自営業	1999/9	1(2)
6	30、大学卒、専業主婦	31、大学中退[25]、会社員	2003/9	―
7	31、大学卒、団体職員	36、大学卒、会社員	2007/11	―
8	28、大学院卒、会社員	30、大学院卒、会社員	2008/6	―

〈表 7〉日本人夫婦（調査対象者）の情報　（年齢、学歴、職業）

	妻	夫	結婚	子供
1	27、大学卒、研究員	27、大学卒、会社員	2007/12	―
2	27、大学卒、専業主婦	30、大学院卒、研究員	2006/6	1(1)
3	32、短大卒、専業主婦	33、短大卒、会社員	2003/4	1(3)
4	32、大学院卒、社会福祉士	33、大学院卒、社会福祉士	2006/11	―
5	27、短大卒、専業主婦	35、短大卒、自営業	2003/10	1(3)
6	27、大学卒、専業主婦	32、大学卒、会社員	2005/5	1(2)
7	29、大学卒、塾の講師	31、大学卒、塾の講師	2007/11	―
8	26、大学卒、専業主婦	32、大学卒、会社員	2007/3	―
9	32、大学卒、塾の講師	31、大学院卒、会社員	2007/5	―

〈表 8〉韓国人夫婦（調査対象者）の情報　（年齢、学歴、職業）

4.3.2.　方法

日本のドラマ「アット・ホーム・ダッド」と韓国のドラマ「불량주부

---

22 括弧の中は子供の年で、調査時点を基準にしたものである。何も書いてない（―）のは子供がいないということである。

23 調査対象者の年齢や子供の年齢については、調査実施日の時点でのものである。

24 5番の夫は専門学校を卒業したが、本調査では専門学校を短大と同等とみなすことにした。

25 6番の夫は大学中退であるが、今回は短大卒と同等とみなすことにした。

不良主夫」からそれぞれ4つずつ[26]夫婦だけの会話場面を取り上げた。「アット・ホーム・ダッド」と「불량주부 不良主夫」の設定内容と主人公夫婦のキャラクターは非常に似ている。それは、「불량주부 不良主夫」は「アット・ホーム・ダッド」を韓国版にリメイクしたものだからである[27]。

具体的調査方法であるが、まずドラマの1場面ごとに夫婦の会話約1分間相当の内容を調査対象者が自分たちの話し方で発話してもらう。ただし、調査対象者に与えられるのは俳優が言ったドラマのセリフそれ自体ではなく指示文である。例えば、「遅くなってごめんね」ではなく「遅くなったことについて謝る」のような指示文である。このようにセリフではなく指示文を提示した理由は、調査対象者に自ら自然に近い発話文を作ってもらうためである。

そして、調査対象者の発話を録音し、それを文字化した上で、分析を行った。上でも述べたが、より信頼性のある結果を得るために、調査対象者には調査が終わるまで夫婦の呼びかけ表現に関する研究であるという目的を知らせなかった。また、指示文には呼びかけ表現を誘導するような、例えば「妻を呼んでください」といった内容は含まれていない。

4.4. 結果

4.4.1. 調査協力者の個人別結果

<表 9>と**<表 10>**はそれぞれ日本人夫婦と韓国人夫婦の会話を録音し、分析した結果である。上でも述べたが、調査に参加した対象者は本研究の目的を調査が終わるまで知らされていない。そして、彼らに手渡した指示文には呼びかけ表現を誘導するような表現は一切書かれていない。

<表 9>を見ると日本人妻は8人のうち4人が呼びかけ表現を使っ

---

[26] 調査は日本のドラマから4つと韓国のドラマから4つの全部で8場面についてしたが、場面によって呼びかけ表現が頻繁に使われた場面もあれば、あまり使われなかった場面もあった。そのため、呼びかけ表現が頻繁に使用された場面を選択し、考察することにする。

[27] この二つのドラマを調査対象に選んだ理由は、登場人物はもちろんのこと、同様に設定された場面が多いので、比較可能な呼びかけ表現が頻出する可能性が高いと期待できるからである。

ている。そして使用数は8番の妻だけが2回で残り3人は1回のみである。バリエーションにおいては4人とも1種類でしか夫を呼んでいない。夫も4人が呼びかけ表現を使っている。使用数は2人が2回で、2人は1回である。バリエーションは4人とも妻の場合と同じく1種類の呼びかけ表現しか用いていない。

	妻		夫	
夫婦番号	使用数	バリエーション	使用数	バリエーション
J1	1	1（あなた）	2	1（おまえ）
J2	0	0	0	0
J3	0	0	1	1（じぶん）
J4	0	0	2	1（おまえさ）
J5	1	1（コウ[28]さん）	1	1（おまえ）
J6	0	0	0	0
J7	1	1（コウジ[29]さん）	0	0
J8	2	1（ショウ[30]ちゃん）	0	0

〈表 9〉 実際の日本人夫婦が会話の中で使った呼びかけ表現の使用数およびバリエーション

＜表 10＞の韓国人夫婦の結果を見ると、総録音時間10分以内の会話で、9組の夫婦、全部で18人の調査対象者のうち妻と夫一人ずつを除いて、全員が呼びかけ表現を使っている。使用数についても、呼びかけを用いた妻は8人が全員2回以上使用していて、夫は8人のうち一人を除いた7人が2回以上使っている。バリエーションにおいては、妻と夫ともに、調査対象者の7割以上の7人が2種類以上の呼びかけ表現でお互いを呼んでいる。

28 夫の名前の縮小形。
29 夫の名前。
30 夫の名前の縮小形。

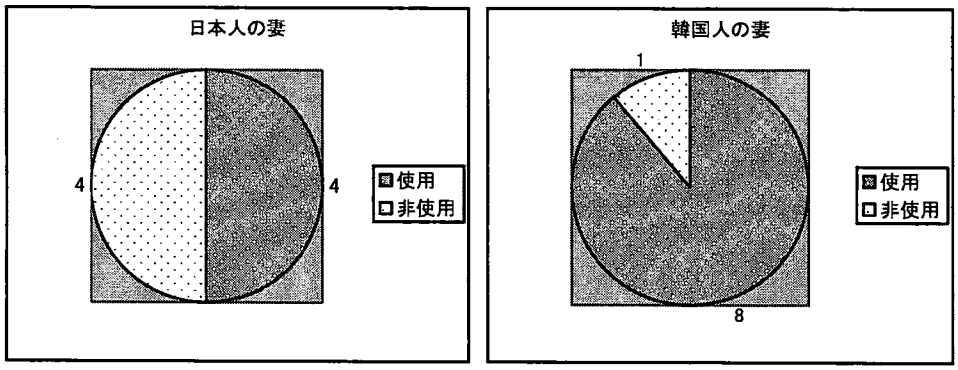
	妻		夫	
夫婦番号	使用数	バリエーション	使用数	バリエーション
K1	3	1 (자기 jagi[31])	5	3 (名前+아/야 a/ya[32], 야 ya[33], 너 neo[34])
K2	16	3 (오빠 oppa[35], 여보야 yeoboya[36], 오빠니 oppani[37])	7	4 (야 ya, 니 ni[38], 마누라 manura[39], 임마 imma[40])
K3	16	2 (오빠 oppa, 오빠오빠 oppaoppa[41])	2	2 (야 ya, 너 neo)
K4	0	0	6	3 (너 neo, 名前+아/야 a/ya, 야 ya,)
K5	7	2 (자기야 jagiya[42], 자기 jagi)	5	3 (名前+아/야 a/ya, 너 neo, 자기야 jagiya)
K6	4	1 (오빠 oppa)	0	0
K7	4	2 (오빠 oppa, 자기 jagi)	3	2 (너 neo, 야 ya)
K8	2	2 (오빠 oppa, 오빠오빠 oppaoppa	1	1 (너 neo)
K9	10	2 (자기야 jagiya, 자기 jagi)	2	2 (야 ya, 너 neo)

〈表 10〉 実際の韓国人夫婦が会話の中で使った呼びかけ表現の使用数およびバリエーション

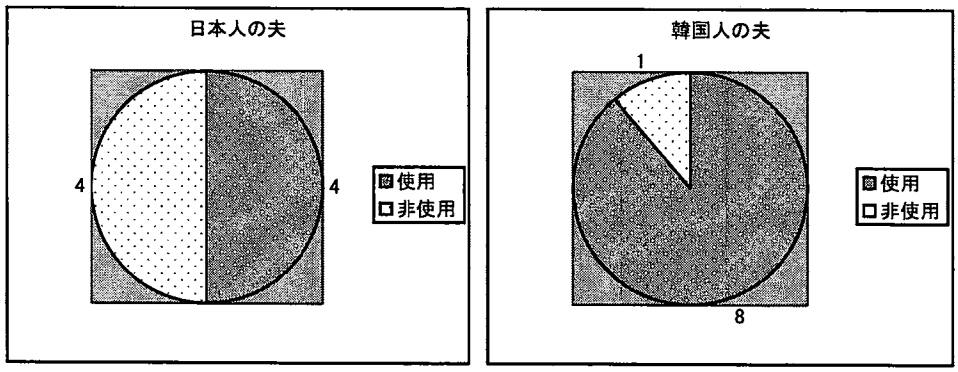
31 自分。
32 目下の人や動物を呼ぶとき名前などの後ろに付ける格助詞。
33 大人が子供を呼んだり同年輩の人がお互いを呼び合う言葉。
34 注 10 の「니 ni」と同じ意味。
35 お兄さん。
36 「여보 yeobo」+「야 ya」。 夫婦がお互いを呼ぶ時の呼びかけ表現に注 7 で説明した「 야 ya 」を付けた形。
37 あんた、お前、君などのように目下や同じ年齢の人に対しての 2 人称代名詞。
38 너 neo と同じ意味。
39 妻、中年以上の妻を気安く呼ぶ言葉。
40 「인마 inma」の誤用、「인마 inma」は「이놈 inom」+「아 a (格助詞)」が縮まった形で、「이놈 inom」は話者の近くにいるか話者が思っている男の人を下品に言う言葉。
41 「오빠 oppa」を 2 回呼ぶ形。
42 「자기 jagi」+「야 ya」。

4.4.2. 日本人夫婦と韓国人夫婦の比較

＜図 1＞と＜図 2＞は調査対象者の日本人夫婦と韓国人夫婦の中で、呼びかけ表現を 1 回でも使用した調査対象者の比率をグラフで表わしたものである。日本人夫婦に比べて韓国人夫婦のほうが、呼びかけ表現を使う人が多いことが分かる。

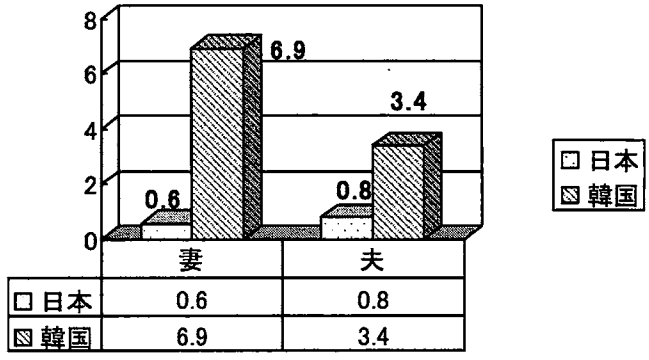


＜図 1＞呼びかけ表現を使用した調査対象者（妻）の数（人）



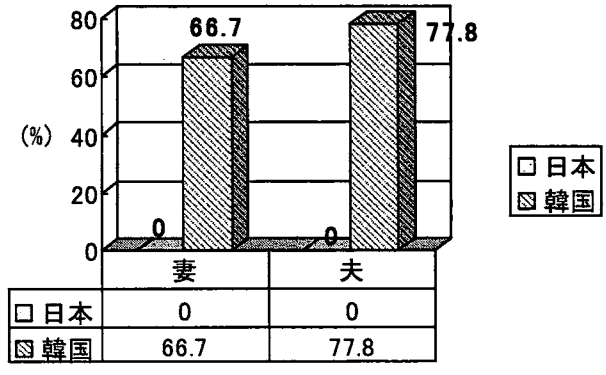
＜図 2＞呼びかけ表現を使用した調査対象者（夫）の数（人）

日本人夫婦は妻と夫ともに全体 8 人のうち 4 人、つまり半数の 50%が呼びかけ表現を使っている。言い換えれば、呼びかけ表現を 1 回も使わなかった妻や夫も 50%あったことになる。韓国人夫婦の場合、妻と夫ともに、9 人のうち 8 人、つまり 89%が呼びかけ表現を使っている。



＜図 3＞一人が使用した呼びかけ表現の平均数

＜図 3＞は、一人あたり平均して何回呼びかけ表現を使ったかを日本人夫婦と韓国人夫婦に分けて表わしたものである。日本人の妻は 8 人が全体で 5 回呼びかけ表現を使ったので平均 0.6 回、韓国人の妻は 9 人が 62 回を使ったので平均 6.9 回となり、韓国人の妻が 11 倍近く呼びかけ表現を多く使ったことが分かる。また、夫の場合も、日本人の夫は 8 人が全体で 6 回使い、一人当たりの平均が 0.8 回、韓国人の夫は 9 人が 31 回を使い、平均 3.4 回となり、韓国人の夫が 4 倍以上多く呼びかけ表現を使っている。



＜図 4＞複数（2 種類以上）の呼びかけ表現のバリエーションを使用した調査対象者の比率（%）

<図 4>は、日本人夫婦と韓国人夫婦において、複数（2種類以上）の呼びかけ表現を使っている妻と夫の比率をグラフで表わしたものである。日本人の場合、夫と妻ともに複数の呼びかけ表現を使った人は一人もいない。ところが、韓国人の場合、調査対象者の半数以上の人が複数の呼びかけ表現を用いて自分の夫や妻を呼んでいる。このように、バリエーションにおいても、日本人夫婦に比べ、韓国人夫婦のほうがより豊富なバリエーションを使ってお互いを呼ぶことが分かった。

4.5. 考察

実際の日本人夫婦と韓国人夫婦の会話を資料とし、両国の夫婦間の呼びかけ表現を比較したところ、ドラマや映画の中の夫婦のそれと同じく、日本人夫婦に比べ韓国人夫婦の呼びかけ表現の使用率が高いことがわかった。さらに、同じ夫婦の間で使われる呼びかけ表現のバリエーションも韓国人のほうが多い。このように、韓国人が会話中呼びかけ表現を頻繁に用いるのは、第3章でも述べたように、呼びかけ表現は会話において、コンテクスト化の合図としての機能を持つからであろう。

本節では、実際の韓国人夫婦の会話、呼びかけ表現の機能を中心に考察する。他方、呼びかけ表現をほとんど使わない日本人夫婦については、呼びかけ表現の代わりに会話においてコンテクスト化の合図として機能する他の言語的・非言語的手段があると思われる。そのため、実際の日本人夫婦の会話については、次の章で別に扱うことにする。

実際の韓国人夫婦の会話を調査して得られた結果から呼びかけ表現を分析したところ、韓国人夫婦が会話の中で使う呼びかけ表現は、①話し手の感情を表したり、②聞き手の感情をコントロールする役割を果たしたりすことが分かった。以下の具体例では、呼びかけ表現を**太字**の*斜体*で表わすことにする。

4.5.1. 話し手の感情を伝達する機能

(1) 妻が相談もせず、勝手に食洗機を買ったことについて夫が怒っている。

妻: 음 내가 낮에 벌써 주문 했는데.
（ウム、私が昼間に注文したけど）

夫: ***야*** 혼자 그렇게 무턱대고 결정하는 게 어딨냐?
（***ya***, 一人でそんなむやみに決めるのがどこにあるの？）

「야　ya」は一般的に大人が子供を呼んだり同じ年齢の人がお互いを呼んだりする時に使われる言葉である。例(1)の夫婦は夫が妻より年上で、「야 ya」を使っても問題はなさそうに見えるかもしれない。しかし、韓国ではたとえ夫が妻より年上だとしても、原則として平等である夫婦の間で夫が妻をそのように呼ぶことは望ましいことではないと考えられている。上の例（1）の夫は普段自分の妻を名前で呼んでいることが調査後のインタービューで分かった。しかし、この場面で「야 ya」という呼びかけ表現を使ったのは、妻に対しての批判の気持ちを表すためであると考えられる。

(2)　妻と夫はテレビショッピングを見ている。妻は欲しがっていた食洗機が出たので、夫にどう思うかかわいらしく聞く。

妻: ***오빠오빠*** 저거 어때? 식기 세척기 봐봐.
（***oppaoppa***, あれ　どう？ 食洗機　見てみて）
어떤 것 같애?
（どう思う?）

夫: 세식군데 5인용 이면은 너무 큰 거 아니야?
（3人家族なのに　5人用はとても大きすぎるんじゃない？）

「오빠 oppa」はお兄さんの意味の親族呼称で、妹が自分の兄を呼ぶ表現である。しかし、韓国では、実兄ではなくても、例えば大学の男性の先輩など親しい関係の中で目下の女性が目上の男性を呼ぶ時にも使われる。また、恋人どうしで年下の彼女が年上の彼を呼ぶ言葉としても頻繁に使われる。そのため、若い夫婦は恋愛時代の呼びかけ表現を結婚してからも引き続き使うことがあり、妻が夫を「오빠 oppa」と呼ぶ場合が多い。この場面で、妻は「오빠오빠 oppaoppa」のように「오빠 oppa」を2回連続して呼んでいるが、そ

れは自分が欲しがっている食洗機がちょうど放送されて夫も見ることができた嬉しさを表現し、夫に本当にその食洗機が欲しいという気持ちを素直に伝えようとしていると考えられる。

一方、日本では夫婦の間で同じ意味の親族呼称である「おにいちゃん」で呼ぶ場合はめったにない。その代わりに「お父さん」や「パパ」などの表現が頻繁に用いられる。

(3) 妻が夫の母の面倒を見るために自分のキャリアを諦めた。

妻: 남편이 효도를 못하니 내라도 대신 어머니 좀 간호해 드리고 보살펴 드려야 될 것 같네.
(夫が親孝行できないから 私でも代わりにお母さん ちょっと 看護してあげて 面倒を見なければならないようだよね)

夫: ***마누라*** 고맙다.
(***manura***、 ありがとう.)

「마누라 manura」は中年以上の妻を気安く呼ぶための言葉であるが、最近の若い夫婦の間では愛称として使う場合も多い。例 (3) の妻は 20 代であるにもかかわらず、夫が妻を「마누라 manura」と呼んだのも、愛称で妻に対しての感謝の気持ちを伝えるためであると考えられる。

丕(2001:218)によると「마누라 manura」は本来社会的地位の高い女性を称する言葉であったが、それがしだいに意味変化し自分の妻を俗っぽく呼ぶことばになった。なぜなら、家庭内で夫が妻を呼ぶ言葉としてすでに「아내 anae[43]」や「부인 buin[44]」が存在していたからである[45]。

---

43 結婚して男性の妻になった女性、妻。
44 他人の妻を、敬意を持って呼びかける言葉。昔門閥の高い人が自分の妻を称した言葉。
45 このような研究やマスコミなどを通じて、「마누라 manura」の本来の意味が一般に知られるようになり、若い夫婦では伝統的で情が含まれている「마누라 manura」を愛称として呼ぶ若い夫が増えてきているようである。

4.5.2. 聞き手の感情をコントロールする機能

韓国語の呼びかけ表現のもう一つのメタコミュニケーション的機能は、相手の感情をコントロールすることである。以下は、今回の調査の結果から得られた別の機能を果たす例である。

(4) 妻が連絡もせず遅れて帰宅したので夫が怒っている。

夫: 아 ***임마***, 그래도 전화 한 통 못하나?
(あ ***imma***、でも 電話一本も 出来ないのか?)

妻: 아 그래도 상사가 있고 이래가지고 그랬다
여보야, 미안.
(あ でも 上司がいたりしてそうした
yeoboya、ごめん.)

「임마 imma」は「인마 inma」の誤用表現である。「인마 inma」は「이놈아 inoma」が縮約されたものである。「이놈아 inoma」は「이놈 inom」に目下の人や動物を呼ぶとき名前などの後ろに付く格助詞「-아 a」が付けられた形である。「이놈 inom」は聞き手が男性である場合、その聞き手を見下して呼ぶ2人称代名詞である。例(4)の夫は、帰宅が遅かった妻に対しての批判の感情を「임마 imma」という呼びかけ表現を使って表している。

一方、妻は「임마 imma」までを使うほど怒っている夫に対して「여보야 yeoboya」というカジュアルな表現を使うことにより夫の怒りをなくそうとしているようだ。「여보야 yeoboya」は伝統的に韓国人夫婦がお互いを呼ぶ呼びかけ表現の「여보 yeobo」に呼格助詞「-야 ya」が付けられた表現である。「여보 yeobo」と「여보야 yeoboya」は呼格助詞の有無という小さな違いがあるが、呼びかけ表現として発話文の中での役割はかなり異なると考えられる。「여보 yeobo」は夫婦だけがお互い呼びあうことができる夫婦専用の呼びかけ表現である。そのため、結婚するまでお互いが使ったことのない「여보 yeobo」という表現でお互いを呼ぶことに新婚の夫婦は抵抗を感じる場合がある。しかし、「여보 yeobo」に呼格助詞の「-야 ya」を付けることで、例(3)の若い夫が自分の妻を「마누라 manura」

と呼ぶことと同じく、愛情を含めて冗談っぽく呼び、それによって自分たちは夫婦であることを強調し、確認することができる。

(5) 夫がリストラされたことを妻に言わなかったので妻が怒っている。

夫: 아 뭐 어차피 해결 될 거라고.
그렇게 심각하지도 않았고.
(あ、どうせ解決できるって
そんなに深刻でもなかったし)

妻：그럼 이게 해결 된거야?
그럼 먼저 나한테 상의를 해야지.
자기야 우린 부부잖어.
(じゃ、これが解決できたこと？
なら　まず私に相談をしなきゃ
jagiya　私たちは夫婦だよ)

「자기야 jagiya」は、「自分」のことを意味するが恋人同士や夫婦の間でお互いを呼ぶ呼びかけ表現として使われる「자기 jagi」に目下の人や動物などを呼ぶ時の呼格助詞の「-야 ya」が付けられた表現である。この場面の妻は確かに夫に対して批判をしているが、夫が傷つかないように配慮し「자기야 jagiya」を使っていると考えられる。

「자기야 jagiya」と「자기 jagi」も例 (4) の「여보 yeobo」と「여보야 yeoboya」のようにそのニュアンスが微妙に異なると考えられる。「-야 ya」という呼格助詞が本来目下や同い年の人の名前などに付けられるものであって、「자기 jagi」より「자기야 jagiya」のほうがよりカジュアルな表現のようである。しかし、これまでの先行研究において、呼びかけ表現の言語学的・社会言語的分類に重点を置いたものは、多くの場合「자기야 jagiya」と「자기 jagi」など呼格助詞が付けられた表現と付いていない表現を一つの枠にひとくくりに分類する傾向があったが、それはコミュニケーション機能上異なるのではないであろうか。例えば、日本語の「ともみちゃん」と「ともみ」がコミュニケーション機能において異なる呼びかけ表

現でありうることを考えればわかりやすいであろう[46]。

日本人夫婦に比べて韓国人夫婦は、会話における呼びかけ表現の使用頻度が高く、そのバリエーションも多い。このように、韓国人夫婦が多様な呼びかけ表現を頻繁に使う理由は、韓国語の呼びかけ表現には単なる呼びかけの機能だけではなく、話し手の感情を表したり聞き手の感情をコントロールしたりするなどメタコミュニケーション的機能があるからだということが確認できた。つまり、コンテクスト化の合図としての役割を果たすことが分かった。

4.6. まとめ

本章では、実際の日本人夫婦と韓国人夫婦の会話を、呼びかけ表現を中心に分析した結果に基づき、従来、特に注目を集めなかった韓国語の呼びかけ表現の異なる機能について調査した。その結果、実際の夫婦においても、日本人に比べて韓国人のほうが、会話中より頻繁に呼びかけ表現を用い、そのバリエーションも豊富であることが明らかになった。また、韓国人夫婦が呼びかけ表現を多く使うのは、呼びかけ表現が会話においてコンテクスト化の合図としての機能をするからであることを、韓国人夫婦の会話の例から示した。

ところで、日本人夫婦が会話中、あまり呼びかけ表現を使わないのは、呼びかけ表現のほかにコンテクスト化の合図として用いられる言語手段があるからであろう。

*

次の章では、実際の日本人夫婦の会話を韓国人夫婦の会話と比較・分析し、コンテクスト化の合図としての言語手段を明らかにする。

---

46 日本人夫婦の呼びかけ表現に関する研究の中でも、「名前＋ちゃん」「名前＋さん」「名前だけ」などの区別をしないで全てを「名前」と分類しているものが多い。

第5章　日本人夫婦間で使用されるフィラーがもつコンテクスト化の合図としての機能[47]

5.0.　はじめに

前章では韓国人夫婦が会話中呼びかけ表現を頻繁に用いる理由は、呼びかけ表現がコンテクスト化の合図としての役割をするからであることを明らかにした。本章では、実際の日本人夫婦と韓国人夫婦の会話を比較し、日本人夫婦が呼びかけ表現をあまり使わない理由を考察する。そして、会話において呼びかけ表現の代わりにコンテクスト化の合図としてフィラーという言語手段を用いるという仮説を検証する。

5.1.　目的

第4章で示したように、韓国人夫婦は会話において自分の意図をメタコミュニケーション的に伝えるため、つまりコンテクスト化の合図（Gumperz 1982）として会話中呼びかけ表現を頻繁に使用する。すでに述べたようにコンテクスト化の合図というのは話者が自分の意図を相手に対して暗示的伝えようとするメタコミュニケーション的手段で、例えば、イントネーションやアクセントやプロソディーのようなパラ言語的（paralinguistic）手段もコンテクスト化の合図として使用される。

井上（2003：22-23）によると、英語の会話でも呼びかけ表現は、韓国人夫婦の会話と同じくコンテクスト化の合図としての機能を果たすという。前章では、韓国人の夫婦が実際の会話において呼びかけ表現をコンテクスト化の合図として用いることを確認した。

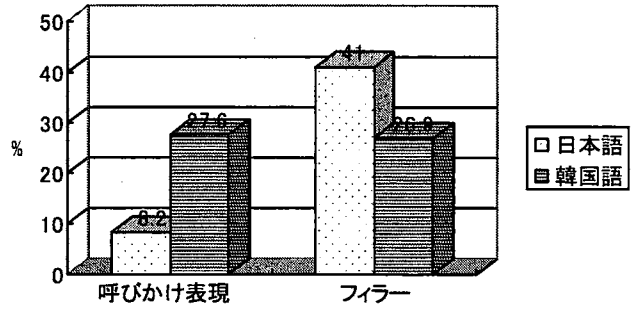
ところが、第3章と第4章で明らかになったように日本人の夫婦は会話中呼びかけ表現をあまり使わない。日本人夫婦が韓国人夫婦に比べて会話において呼びかけ表現をあまり使わない理由は、呼び

---

[47] 本章は言語科学学会第10回国際年次大会(The 10th Annual International Conference of the Japanese Society for Language Sciences, 静岡県立大学, 2008年7月12-13日)で研究発表した内容を基礎にしている（Yoon 2008a)。

かけ表現の代わりにコンテクスト化の合図として機能するほかの言語的要素があるからではないかと考えられる。

韓国人の会話と比べて、日本人の会話でより多く見られる言語的要素にはフィラー（fillers）[48]がある。言い換えれば、日本人は韓国人に比べ、会話中フィラーをより頻繁に使い、そのフィラーのバリエーションも多様である。したがって、日本語のフィラーは韓国語の呼びかけ表現のように、会話においてコンテクスト化の合図としての役割を果たすのではないかと予想することができる。



〈図 5〉日本のドラマ「アット・ホーム・ダッド」と韓国のドラマ「투명인간최장수（透明人間チェ・ザンス）」の主人公夫婦の会話における呼びかけ表現とフィラーの使用率（%）

＜図 5＞は日本のドラマ「アット・ホーム・ダッド」と韓国のドラマ「투명인간 최장수（透明人間チェ・ザンス）」の主人公夫婦の会話において呼びかけ表現とフィラーの使用率を表わしたものである。呼びかけ表現においては韓国ドラマの主人公夫婦が、他方、フィラーについては日本ドラマの主人公夫婦がより多く用いていることが分かる。

本章では、同じく設定された場面での、実際の日本人夫婦と韓国人夫婦の会話を録音分析する。そうすることによって、同じ場面の同じ内容の発話において、自分の意図を伝える手段が、日本人と韓国人話者で異なるかどうかを調査する。つまり、会話におけるコン

---

[48] 第１章（序論）の用語定義のところでも提示したが、フィラーは研究者によってその定義が異なる。本研究では発話文のにおいて独立で自由に使われる感動詞や間投詞や言い淀みなどを指す。

テクスト化の合図の手段として、日本人はフィラーを、韓国人は呼びかけ表現を用いるという仮説を検証する。

5.2. 先行研究

定延（2005）は、コミュニケーションにおけるフィラーは人間関係の調整にかかわるとし、それを様々な例を挙げて指摘した。発話場面によってフィラーを発していい人がいれば、発してはいけない人もいる。そして、フィラーを発していい場面であっても使っていいフィラーとそうではないフィラーもあるようである。

山根（2002）は日本語の会話において使われるフィラーの機能を「テクスト構成に関わる機能」、「話し手の情報処理能力を表出する機能」、「他人関係に関わる機能」の3つにまとめている。

定延（2005）と 山根（2002）は、日本語の研究において従来あまり注目されなかったフィラーに焦点をあて、その様々な機能などを明らかにした。しかし、フィラーという用語が明確に定義されていないことや、あるフィラーがどのような機能を持っているかなどその体系が正確に定められていないという問題が残されている。

中村（2007）は日本語の謝罪表現と共に用いられるフィラーとその機能について分析し、聞き手との社会的距離が離れれば離れるほど、謝罪の内容が軽くなければ軽くなるほどフィラーを使わなくなる傾向があると指摘する。中村（2007）はフィラーとポライトネスの関係に注目したが、その調査方法がアンケートによるものであった。実際に口頭で発話するのではなく記入式のアンケート調査では、フィラーが省略される場合が多いなど自然な会話に近いとは言えないであろう。

朴（2006）はフィラーの使用について日本と韓国を比較したが、フィラーの機能よりもその使用頻度に注目した。それによると、韓国語会話より日本語の会話でフィラーがより多く使われるという。ところが、日韓比較調査でありながらすべての調査は日本で行われている。調査対象者についても、日本人は日本のある大学に在学中の大学生であり、韓国人は日本の同じ大学に留学中の留学生であるなど、調査の公平性が適切にコントロールされているとは言えない。

上記の問題点を克服する調査方法として、本章では、日本語のフィラーを韓国語の呼びかけ表現と比較、コンテクスト化の合図とし

ての機能を有していることを実際の日本人夫婦と韓国人夫婦の会話で明らかにする。

5.3. 調査方法

5.3.1. 資料

本章において調査の資料になるのは実際の日本人夫婦と韓国人夫婦の会話である。夫婦の会話を資料とするためには、調査者の影響がないように隠しカメラなどで夫婦の会話の場面を撮るのが一番いい方法であるかもしれないが、それは倫理的に許されない方法である。また、調査について夫婦に説明し、自由に話してもらう方法もあるが、夫婦によって会話のテーマはもちろんのこと、ひとつひとつの発話の内容が異なるという問題が生じる。そして、その違いがフィラーの使用にも影響を与える可能性がある。そこで、同じ場面を想定させる調査により、より客観的にそれぞれの夫婦の会話比較を試みた。この比較調査用に、次の両国のドラマから夫婦の会話からそれぞれ4場面[49]ずつ取り上げた。

日本のドラマ：「アット・ホーム・ダッド」
韓国のドラマ：「불량주부（不良主夫）」

韓国のドラマ「불량주부(不良主夫)」は日本のドラマ「アット・ホーム・ダッド」をリメイクしたものなので、2つのドラマの設定や内容は非常に似ている部分が多い。

調査に参加したのは実際の日本人夫婦8組と韓国人夫婦9組である。調査対象となるのはすべて20代から30代で、短大（専門大学）以上の学歴を持ち、それぞれの国の首都である東京とソウルを中心とした首都圏に住んでいる夫婦である。日本人夫婦は韓国語についての知識がなくて、韓国人夫婦も日本語についての知識はない者を選んだ。

---

[49] 調査は日本のドラマから4つと韓国のドラマから4つの全部で8場面について実施したが、場面によって呼びかけ表現がたくさん使われた場面もあれば、あまり使われなかった場面もあった。そのため、考察は呼びかけ表現が頻繁に使われた場面を選択して分析することにする。

5.3.2. 方法

日本人夫婦と韓国人夫婦はそれぞれ日本語と韓国語で書かれた場面の説明文と発話の指示文にしたがって発話する。発話の指示文はドラマのセリフのように「遅れてごめん」といった具体的な発話ではなく、たとえば、「遅れてきたことについて謝る」のような、文字通り指示文である。指示文には「妻に呼びかける」など呼びかけ表現やフィラーを誘導するような内容はなく、参加者の夫婦が会話において自然に呼びかけ表現やフィラーを使うようにさせた。参加者夫婦は本調査の目的を知らされていない。指示文に従って夫婦に会話をしてもらったその会話は録音されている。その録音された音声を文字化し、その文字を分析する。

5.4. 結果

以下は日本人夫婦と韓国人夫婦の同じ場面での同じ発話を表したものである。日本語・韓国語とも同じく設定された場面で実際の日本人夫婦と韓国人夫婦の会話を比較する。本章では、いくつかの場面（妻：感謝・謝罪・お願い、夫：感謝・謝罪・批判）を取り上げ比較する。取り上げたのは韓国人夫婦が呼びかけ表現をよく使った場面である。その場面で日本人夫婦はフィラーを使うのか、使うとするならばどのようなフィラーを使うのかを考察する。日本人夫婦の会話ではフィラーの部分を、韓国人夫婦の会話では呼びかけ表現を、**太字**の*斜体*で表すことにする。

5.4.1. 妻の場合

場面 1) 妻が大事な書類を忘れて行ったので、夫が届けに妻の会社まで来ている。

妻	発話	
W1	わざわざ持ってこなくてもいいのに　実はファクスよりもこっちが必要だったんだよね　ありがとう	고마워 일부러 안 와도 되는데 사실 원본이 더 필요하긴 했어 고마워

W2	***なに*** わざわざ持ってきてくれなくてもいいのに ***うん あ*** 実はね ファクスより原本が ***あの*** 必要だったの ありがとう	아 여기까지 일부러 안가져 와도 되는데 어 사실은 팩스로 보내도 되는데 그래도 원본이 더 필요햇는데 고맙다 ***오빠***
W3	***え*** わざわざ持ってきてくれなくてもよかったのに ありがとう 本当はファクスより本物がよかったから ありがとう	***오빠오빠*** 이거 일부러 갖고 왔어? 안 그래도 되는데 어 고마워 이거 팩스보다 사실은 원본이 있어야 되는 거였거든 너무 고마워 ***오빠***
W4	わざわざ 直接持ってきてくれなくてもよかったのに ありがとう 本当はファクスよりも本物があったほうがよかったんだ ありがとう 本当に	일부러 갖고 오지 않아도 외는데 사실은 팩스 보다도 원본이 더 필요했어 고마워
W5	***あ*** これ わざわざ持ってきてくれなくてもよかったのに ***や*** でもね 本当はね ファクスより本物が必要だったの 本当にありがとう	어 ***자기야*** 이거 일부러 안가져 와도 되는데 미안해 사실은 팩스 보다 원본이 더 필요했단 말이야 고마워
W6	わざわざ持ってきてくれなくてもいいのに ごめんね 実はね ファクスより本物のほうが必要だったから すごい ありがとう 助かる	일부러 가지고 오지 않아도 되는데 사실은 팩스보다 원본이 더 필요했거든 고마워
W7	わざわざ持ってきてくれなくても大丈夫だったのに 本当はファクスより原本が必要だったよね ありがとうね 持ってきてくれて	아유 일부러 가져 오지 않아도 됐었는데 근데 사실 팩스보다 원본이 더 필요 했었거든 고마워
W8	わざわざ持ってきてくれなくてもよかったのにありがとう ***あの*** 実はファクスだと ちょっとあれやったから 本物がほしかったにょ ありがとう	***오빠*** 일부러 가져오지 않아도 됐는데 사실은 팩스보다 원본이 더 필요했어 고마워
W9		음 일부러 안가져 와도 됐는데

場面 2) 妻が電話もせずに遅く帰宅したことを夫に謝る。

妻	発話	
W1	ごめん　食べてきちゃった	식사? 밥? 먹었는데 미안해
W2	***あ***　ごめん　食べてきちゃった	어 ***오빠*** 아직 밥 안먹었나? 내 밥 먹고 왔는데 회식하면서
W3	***や***　みんなで食べてきちゃったんだよね	나 먹고왔는데 어떡하지? 미안해 ***오빠***
W4	***や***　食べてきた食べてきた　ごめんごめんごめん	먹고왔어 먹고왔는데 미안해
W5	***あ***　ごめん　食べてきた　ごめんね	어 나 먹고 왔는데 미안해
W6	***あ***　食べてきちゃった	먹고왔어 미안해
W7	もう食べてきた	아 나 먹고왔어 ***오빠*** 응 미안해 먼저 먹어서
W8	***あ***　食べてきちゃった　ごめんなさい	어 먹고왔는데 어떡하지 미안해
W9		아 먹고 왔어 어 ***자기*** 아직 안 먹었구나? 미안해 ***자기*** 먼저 먹어

場面 3)テレビショッピングで放送中の食洗機が前から妻が欲しがっていたので、夫にどうか聞く。

妻	発話	
W1	これどう思う？	저거 저거 봐봐봐 저거 전에 내가 말했던 거 식기 세척기 좋지? 할인도 하던데
W2	***うーん　あの***　あの　食洗機どう思う？	***오빠*** 저 식기 세척기 어떤데?
W3	これどう思う？	***오빠*** 저 식기 세척기 사고 싶은데 저거 어때?
W4	今　この　テレビでやってるのどう思う？	저거 저거 어때? 식기 세척기 저거 하나 살까? 어때?

W5	この食洗機のモデルどう思う？	***자기야*** 이거 어때?
W6	この食洗機どう思う？	***오빠*** 이거 어때?
W7	今のどう？	저기 저 모델 한 번 봐봐 저거 괜찮지 않어? 식기 세척기 이거 자기가 전에 사준다고 했었던건데 기억해?
W8	あれどう思う？　いいと思うんだよね　可愛いよね	***오빠오빠*** 저거 어때? 저거 봐봐 식기 세척기 봐봐 어떤 것 같애?
W9		***자기야*** 저거 어때?

5.4.2.　夫の場合

場面 4）自分の母親のためにキャリアを諦めた妻に夫が感謝する。

夫	発話	
H1	ありがとう	고마워 ***유진아*** 어떻게
H2	ありがとう	***마누라*** 고맙다
H3	ありがとうよ　やるな　自分	고맙다
H4	本当にありがとう	정말? 아 진짜 ***야*** 생각만이라도 얘기라도 너무 고맙다 진짜 고마워
H5	ありがとう　***や　うーん***　すまないな	***자기야*** 정말 고맙다 일루 와 봐 사랑해
H6	ありがとう	아이구 고맙다 진짜
H7	***うーん***　ありがとう	고마워 응 그래 고마워
H8	本当か？　ありがとう　本当ありがとうね	정말? 고마워
H9		와 진짜 고맙다

場面 5)　リストラされたことを妻に言わなかったことについて妻に謝る。

夫	発話	
H1	***ん***　本当にごめん	미안해 ***유진아*** 안그래도 내가 말 할려고 그랬는데
H2	今回のことは　本当にすまなかったと思ってる	어 미안하다 미리 말을 했어야 되는데 이렇게 돼서 미안하다
H3	悪かったわ	말 안해서 정말 미안하다
H4	本当にごめん	***선형아*** 미안해 진짜 미안하다
H5	***や***　本当にすまないと　思ってる	***현진아*** 정말 미안하다
H6	黙っててごめんなさい	정말 미안하다
H7	***うーん***　本当に申し訳なかったね	정말 미안해 내가 말 하지 않은 거 정말 미안해
H8	黙ってて悪かったね	너무 미안해
H9		아 진짜 미안하다

場面 6)　勝手に食洗機を買った妻に対して怒っている夫。

夫	発話	
H1	***ええ***　ちょっと待ってくれよ何で勝手に買っちゃうの　これ	***야*** 혼자 그렇게 무턱대고 결정하는 게 어딨어?
H2	そういう問題じゃなくてさ　おかしいじゃない　それ	주문했네 그러면 다 끝났네 벌써 그걸 나한테 왜 얘기하는데?
H3	買っちまった？　***あ***　そう？何で勝手に決めるの？	혼자서 결정 다하고 나서 뭐하러 얘길하냐?
H4	どうしたの？　もう決めたの？	아이 무이자 할부도 좋긴 하지만 그걸 나한테 상의도 없이 그냥 혼자서 결정을 해?
H5	勝手に決めちゃったの？	왜 이런거 살 때 혼자 결정하고 그래?

H6	何でそれ勝手に決めたの？	혼자서 결정하면 어떡하냐? 아이참
H7	***うーん*** 何でそんないつも勝手なの？	***야*** 그래도 살때는 같이 해야지 너 혼자 막 그러면 어떻게 해? 아유
H8	***あ***？	뭐야? 혼자서 벌써 결정해서 산거야?
H9		***야*** 저걸 혼자서 결정했냐?

5.5. 考察

上の結果に基づき、場面ごとに夫婦の日本人夫婦と韓国人夫婦の会話を比較分析する。なお、[　　] は、上記の表の場面と話者に対応している。たとえば、[1－5] は場面 1) の 5 番目の夫婦の発話を指す。ローマ字の J・K・K・W はそれぞれ日本人・韓国人・夫・妻の略である。したがって、[1-KW5]は、場面 1 における 5 番目の韓国人の夫による発話のことである。

場面 1) 感謝（妻）

＜韓国語＞ [1－KW5]

妻: ***오빠오빠***[50] 이거 일부러 가져왔어? 안그래도 되는데.
（***oppaoppa*** これわざわざ 持って来たの？
そうしなくてもいいのに）

夫: 자 여기있어.
（はい ここにあるよ）

妻：어 고마워 이거 팩스보다 사실은 원본이 있어야 되는 거였거든 너무 고마워 ***오빠***[51].
（ありがとう これ ファクスより実は原本がないと いけなかったの 本当にありがとう ***oppa***）

[50]「오빠 oppa（お兄さん）」を二回連続して使う形。
[51]「오빠 oppa」はお兄さんの意味。

＜日本語＞［1－JW2］

妻：***なに***[52] わざわざ　持ってきてくれなくても　いいのに

夫：***や***　そう言っても大事な書類なんだろう はい

妻：***うん　あ***　実はね　ファクスより原本が
あの　必要だったの　ありがとう

「오빠 oppa」は第 4 章で指摘したように、「お兄さん」の意味の親族呼称で、通常、妹が自分の兄を称する表現である。しかし、韓国では、自分の実兄ではなくても例えば大学の男性の先輩など、親しい関係の中で目下の女性が目上の男性に対して呼ぶ時にも使われる。また、恋人どうしで年下の彼女が年上の彼を呼ぶ言葉としてもよく使われる。そのため、若い夫婦は恋愛の時の呼びかけ表現を引き続き使い、妻が夫を「오빠 oppa」と呼ぶ場合も多い。

この場面では、書類を会社まで持ってきてくれた夫に対しての感謝の気持ちを「오빠오빠 oppaoppa」のように「오빠 oppa」を 2 回繰り返すことによって表している。一方、「오빠오빠 oppaoppa」は第 4 章の例 2 の妻の発言においても見られた現象で、第 4 章の妻は、食洗機が欲しいという気持ちを夫にかわいらしく伝えるために使っていた。さらにこの妻は、すでに会話が進行している 2 回目の発話の時も感謝の言葉と共に「오빠 oppa」をもう一回使っている。

日本語の「なに」は疑問詞であるが、上の場面では妻の驚きや意外さを表現するフィラーとして使われている。「なに」の反語的使用は、夫に対しての感謝の気持ちを伝える手段であると考えられる。2 回目の発話で「ありがとう」など感謝の言葉を直接発しているが、韓国人のように呼びかけ表現などは使わないで、「うん」「あ」「あの」のようにフィラーを三つも用いていることが分かる。

場面 2）謝罪（妻）

＜韓国語＞［2－KW3］

夫：저녁 다 해놨는데.

52　念をおしたりする時に問いかえしたり相手の言葉を打ち消したりする時に使う語（『広辞苑』）。

（夕飯　全部　作っといたけど）

妻：나 먹고왔는데 어떡하지? 미안해 ***오빠.***
（私　食べてきたけど　どうしよう？　ごめん　***oppa.***）

夫：밥 안먹고 난 기다렸는데.
（ご飯食べないで　私は待ってたのに）

＜日本語＞［2－JW9］
夫：じゃ　今から食事の準備するよ

妻：***あ***　食べてきちゃった　ごめんなさい

夫：***あ***　待ってたのに

韓国人妻は、謝る表現を「오빠 oppa」という呼びかけ表現と共に言っている。

一方、日本人の妻は「あ」というフィラーを使っている。この「あ」は、忘れていたことを今思い出したという合図になるが、謝る表現である「ごめん」を言う前に「あ」を使って、言いにくい大事なことを今思い出したかのようにこれから言うということをさりげなく伝えようとしていると考えられる[53]。

ところが、この場面での「あ」は、夫が「食事の準備をする」と言ったことについて、それを止めようとするために使ったとも解釈される。実際、この場面での韓国人の妻も呼びかけ表現と共にフィラーも使っている。フィラーを他の合図として使った日本人の妻は、「ごめんなさい」のように丁寧な表現を使って夫に謝っている。韓国人妻は全員「미안해 mianhae」のように同じ謝りの表現を使っているが、日本人妻はこの場面で、「ごめん」「ごめんごめんごめん」「ごめんね」「ごめんなさい」のように様々な表現を使っているのが特徴的である。

---

53 中村（2007：159-160）によると「あ」は直接的な感謝・謝罪表現の前に現われる場合が多い。

場面 3）お願い（妻）

（韓国語）［3－KW8］

妻：***오빠오빠***[54]　저거 어때? 저거 봐봐 식기세척기 봐봐
어떤 것 같애?
（***oppaoppa*** あれどう？　あれ見てみて
食洗機　見てみて　どう思う？）

夫：세 식군데 5인용이면은 너무 큰 거 아니야?
（3人家族なのに　5人用は　大きすぎるんじゃない？）

（日本語）［3－JW2］

妻：***うーん　あの***　あの食洗機どう？

夫：え？　うち3人だから　あれはちょっと
大きいんじゃないかな　5人用でしょう？

韓国人の妻は、自分がほしがっていた食洗機を見て、買いたい気持ちを伝えるために「오빠오빠 oppaoppa」と、感謝の例と同じく「오빠 oppa」を2回使う呼びかけ表現で夫を呼んでいる。

日本人妻は「うーん」と「あの」のようなフィラーを連続して使っている。これは、単純に食洗機がどうかを聞くだけではなく、話すことを躊躇していることを示し、ほしいのでどう思うか尋ねているということを間接的に伝えようとする合図と考えられる。

場面 4）感謝（夫）

＜韓国語＞［4－KH2］

妻：남편이 효도를 못하니 내라도 대신 어머니
좀 간호해 드리고 보살펴 드려야 될 것 같네.
（夫が親孝行できないから　私でも代わりにお母さん
ちょっと　看護してあげて　面倒を見なければならない
ようだよね）

---

[54]「오빠 oppa（お兄さん）」を二回連続して使う形。

夫: ***마누라*** 고맙다.
(***manura***、 ありがとう.)

＜日本語＞［4－JH5］
妻：***うーん*** あなたが親孝行できないんだから
私がしなければいけないし

夫：ありがとう ***や*** ***うーん*** すまないね

韓国人の夫は感謝の気持ちを伝えるために普段はあまり使わない「마누라 manura」を使っている。この会話に関する解説は、第4章の例（3）と同じであるからここでは省略する。

日本人夫は「や」と「うーん」というフィラーを使ってお礼を述べたが、特別の感謝の気持ちを伝えるために、時間をかけていると考えられる。

場面5）謝罪（夫）

＜韓国語＞［5－KH5］
夫: ***현진아***[55] 정말 미안하다.
(***hyunjina*** 本当に ごめん)

妻: 왜 나한테 말하지 않았어?
(何で 私に 言ってくれなかったの?)

＜日本語＞［5－JH5］
夫: ***や*** 本当にすまないと思ってる

妻: 何で 話してくれなかったの？

「현진아 hyunjina」は韓国人の妻の名前「현진 hyunjin」に呼格助詞「아 a」を付けた呼びかけ表現である。上の夫婦は結婚5年目で、3歳の息子がいる。息子が生まれる前までは夫は妻を主に名前や

55 「현진 hyunjin+ 아 a」、「현진 hyunjin」は妻の名前で「아 a」は呼格助詞。

「자기야 jagiya」で呼んでいたが、子供が生まれてからはそれに加え子供の名前○○にママという意味の言葉をつけた形の「○○엄마 eomma」とも呼ぶようになったそうである。この場面で特に名前を用いたのは、夫の謝りの内容が簡単なものではないため、「あなたに対して本当にすまないと思っている」ということをはっきり伝えたかったと判断したのではないかと考えられる。

一方、日本人の夫は「本当にすまない」という気持ちを伝えるために「や」というフィラーを使っている。フィラーは呼びかけ表現に比べると間接的表現であるため、フィラーを使うと躊躇しているという印象を相手に与えるかもしれないのでその使用が避けられることもあるが、この例では「や」や「あ」というフィラーを使うことによって言わなければいけないことを今思い出したかのように示し、謝罪の気持ちを伝えようとすると考えられる。

場面 6）批判（夫）

＜韓国語＞［6－KH1］

妻：음 내가 낮에 벌써 주문 했는데.
（ウム、私が昼間に注文したけど）

夫：***야*** 혼자 그렇게 무턱대고 결정하는 게 어딨냐?
（***ya***, 一人でそんなむやみに決めるのがどこにあるの？）

＜日本語＞［6－JH1］

妻：***いや***[56] でも　もう　買っちゃったよ

夫：***ええ***[57]　ちょっと待ってくれよ
何で勝手に買っちゃうの　これ

同じ会話の場面で同じ発話の位置に、韓国人の夫は「야 ya」という呼びかけ表現を用い、日本人の夫は「ええ」というフィラーを使

56　呼びかけや言いはじめに発する声。串田（2005：45）は、「いや」は日本語の会話に頻出する感動詞のひとつであり、その働きは「いいえ」と重なる部分が多いが会話の中で用いられる「いや」を観察すると「いいえ」と異なる部分があることを指摘している。

57　驚き・悲しみ・くやしさなどの感動を表す語（『広辞苑』）。

っているのが上の例から分かる。

韓国では、特に若い夫婦の場合、夫は普段自分の妻を名前で呼ぶ。上の例でも、夫は実際に自分の妻を名前で呼んでいる。しかし、この場面では名前の代わりに「야 ya」という呼びかけ表現を使っている。「야 ya」は目上の人が親しい目下の人や同じ年齢の人を呼ぶ時に使う呼びかけ表現であるが、夫婦の間でお互いを「야 ya」で呼び合うことはあまりいいことではないと認識されている。したがって、場面 6）の韓国人の夫は妻に対するの批判の感情を「야 ya」という呼びかけ表現を使うことによってコンテクスト化の合図を送っていると考えられる。

一方、日本語の場合を見ると、日本人の夫は、韓国人の夫が自分の批判の感情を伝えるために呼びかけ表現を使った位置に、「ええ」というフィラーを使っていることが分かる。日本人の夫は「ええ」というフィラーを使って、驚きや意外さを表現し、妻への批判の感情を伝えていると考えられる。

5.6. まとめ

本章では、日本人夫婦の会話と韓国人の夫婦の会話を比較分析した結果を考察した。それによると呼びかけ表現については、日本人に比べ韓国人のほうが会話での使用率が高いことが明らかになった。また、フィラーの使用率は韓国人より日本人のほうが高いことが分かった。さらに、発話において呼びかけ表現とフィラーの出現位置がほぼ同じである場合が多いことと、その呼びかけ表現とフィラーはメタコミュニケーション的機能を果たしているらしいということも分かった。

ただし、本研究では参加者夫婦の数が韓国人 9 組と日本人 8 組であまり多くなかったので、日本語においてどのフィラーがどのような役割を持っているかなどその体系を具体的に示すことはできなかった。今後、韓国語のフィラーと比較するなどフィラーに焦点を当てた研究が求められる。

そして、日本語と韓国語においては、このようにコンテクスト化の合図としてそれぞれフィラーと呼びかけ表現といった異なる言語的要素が用いられる理由を、両国の会話スタイルなどに注目して調べる必要があろう。

*

次章では、第４章と５章での資料に基づき、同じ指示文に従って話す発話文が日本人と韓国人でどのように異なるのかを調べる。そして、日韓の会話スタイル（特に発話量と発話文の種類）に関する研究へと展開させていく可能性を検討する。

第6章　会話における発話解釈への話し手と聞き手の貢献度[58]

6.0. はじめに

本章では、第5章までの結果および先行研究に基づき、コンテクスト化の合図として主に使用される言語手段が日本語（フィラー）と韓国語（呼びかけ表現）で異なる理由を考察する。そして、その理由が両国の会話スタイルの違いにあることを示唆する。

6.1. 呼びかけ表現とフィラーがそれぞれもつコンテクスト化の合図としての機能

会話において話し手は言語的および非言語的手段を用いて相手に自分の意図をメタコミュニケーション的に伝えることができる。すでに述べたように、Gumperz (1982)はそのような手段をコンテクスト化の合図（contextualization cues）と名づけたが、それには、例えば、イントネーション、アクセント、プロソディー、呼びかけ表現、フィラーなどの言語的・非言語的手段が使用されると考えられる。特に、非言語的要素に比べ、言語的要素である呼びかけ表現やフィラーは、異なる言語や文化圏でその使用が異なると考えられる。

第3章では韓国と日本の夫婦間の呼びかけ表現をそれぞれ比較し、日本人夫婦に比べ韓国人夫婦が会話においてより頻繁に呼びかけ表現を使うことがわかった。そして、第4章では、韓国人夫婦が日本人夫婦に比べて呼びかけ表現をより頻繁に使用するのは、呼びかけ表現が会話においてコンテクスト化の合図として機能をするからであることを検証した。

フィラーについて、朴（2005）は日本人と韓国人の自然会話を分析し、韓国人に比べて日本人のほうがより多くフィラーを使うと主

---

[58] 本章は、第18回国際言語学者会議（The 18th International Congress of Linguists. 2008,7.21-26, Seoul, Korea University）で口頭発表した研究（Yoon forthcoming）を基礎にしている。

張している。この主張は、第 5 章で日本と韓国のドラマの夫婦間会話を分析し日本人夫婦の会話でフィラーがより多く使われることを明らかにすることにより検証した。そして、実際の日本人夫婦と韓国人夫婦の会話を比較分析し、同じ内容の発話の同じ位置に、韓国人夫婦は呼びかけ表現を日本人夫婦はフィラーを使うことを確認し、韓国語の呼びかけ表現のように日本語のフィラーがコンテクスト化の合図として機能すると主張した。

韓国語と日本語は、統語論上語順が同じであるなど文法的に非常に似ている言語である。また、呼称システムにおいても似ている部分が多い。しかし、コンテクスト化の合図としての言語的手段が呼びかけ表現とフィラーのように異なる。呼びかけ表現は相手を直接呼ぶ表現であることからも分かるように、話し手が用いる呼びかけ表現は常に聞き手に向けられている。一方、フィラーは主に自分の感情を表す場合が多く、必ずしも相手に向かって発せられているとは限らない。言い換えれば、コンテクスト化の合図としての呼びかけ表現は相手への訴えかけという点で積極的手段といえそうだが、フィラーは呼びかけ表現に比べるとそれほど積極的ではないといえよう。

6.2. 発話解釈への話し手と聞き手の貢献度

このようにコンテクスト化の合図として、韓国人は明示的な呼びかけ表現を積極的に送り、日本人は非明示的な手段のフィラーを消極的に用いる理由は何であろうか。本節では、その理由を韓国人話者と日本人話者の会話理解における話し手と聞き手の役割の違いにあることを指摘したい。

会話における話し手と聞き手の積極性や協力度に関する日韓比較研究は従来いくつかあった。まず、任（2005）は、配慮表現を通して日本人と韓国人の話の展開方法と相づちについて比較研究した。任（2005:245）は、Brown/Levinson のポライトネス理論に基づき、日本人の曖昧で間接的な話題の展開は、あまり押し付けがましさを感じさせず、相手への「消極的欲求」に配慮した表現だと述べている。それに対して、韓国人は日本人に比べて積極的ではっきりした「透明な言語」を使っているが、言葉の上で相手と関わりたいという「積極的欲求」に則った表現を好むとも解釈できるという。

朴（2007）は韓国語と日本語の談話マーカーについて相づち、言いよどみ、重なりを中心とした研究をした。朴（2007）の結果から、相づちについては日本語母語話者が相づちの異なり語数（バリエーション）も、頻度も高く、聞き手が話し手に対して協力姿勢を示していることが分かる。また、言いよどみに関しても、日本語母語話者のほうが異なり語数が高く、頻度も高い。したがって日本人話者がより婉曲な表現を用いることが明らかにされた。一方、重なりについては韓国人のほうがその交替の割合が高く、発話の順番をとろうとすることによって生じる非協力的スタイルが見られたという。それは言い換えれば、韓国人話者は会話において積極的であるというようにも考えられる。

たとえば、第5章の妻がお願いをする場面で次のような例がある。

例）妻と夫はテレビショッピングを見ている。妻は欲しがっていた食洗機が出たので、夫にどう思うかかわいらしく聞く。

＜日本語＞

妻：これ　どう思う？

＜韓国語＞

妻：저거 저거 어때? 식기 세척기.
　　저거 하나 살까? 어때?
　　（あれ　あれどう？　食洗機　あれ　ひとつ買おうか？　どう？）

日本人の妻の場合は、8人の調査協力者のうち1人の妻だけが「JW8：あれどう思う？　いいと思うんだよね　可愛いよね」と発話している。そこでは、「買う」という言葉を明示的に使用してはいないが、買いたいという気持ちを夫に伝えようとしている。残りの7人の妻は、上例のように、単に「食洗機をどう思うか」と尋ねているだけである。

他方、韓国人の妻の場合は、9人の調査協力者のうち4人が単に「食洗機をどう思うか」と尋ね、他の5人は「買いたい」「セール中である」などの説明を加えて夫に話している。また、面白いことには、単に夫に「食洗機をどう思うか」と質問している韓国人妻4人は、

全員が呼びかけ表現を使って夫を呼んでいる。

このように、日本人と韓国人の発話を比較してみると、日本人の妻は食洗機を欲しがっているが、ほしいという気持ちを夫に明確に伝えようとはせず、ただ相手の意見を尋ねているだけである。しかし、韓国人の妻は、夫に食洗機をどう思うか尋ねるだけでなく、買いたいという気持ちを明示的に言葉で説明していることが分かる。

元（2008）は勧誘表現について日韓比較研究を行ったが、韓国人は積極的ポライトネス戦略（positive politeness strategy）である勧誘表現を明示的に使って積極的に勧誘する場合が多いが、日本では勧誘表現の代わりに依頼表現や疑問表現などの消極的ポライトネス戦略（negative politeness strategy）を多く利用すると指摘した[59]。

同じ場面で同じ内容の指示文にしたがって話してもらった実際の日本人夫婦間と韓国人夫婦間の会話を比較して、その話し方が両国でかなり異なることが今回の調査で明らかになった。会話において、日本人話者に比べると韓国人話者の発話量が多く、自分の意見を述べる際に断定的な文章を使うなど聞き手の理解を求めるために積極的な態度を示している。他方、日本人話者は、自分の意見を直接述べるという方法はとらず、疑問文を用いて聞き手の積極的理解を求めるような発話をする。

そして、コンテクスト化の合図として利用される手段が、日本語ではフィラーであり韓国語では呼びかけ表現というように異なるのは、会話における話し手の積極性が両国で異なることと関連していると考えられる。つまり、会話において発話理解に関わる責任主体が両国で異なると予測される。会話において積極的である韓国人話者は、様々な呼びかけ表現を頻繁に用いながら自分の意見はもちろん現在の心的状況を聞き手に伝えようとする。一方、聞き手の積極的理解を期待する日本人の話し手は、フィラーを用いて自分の心的状況や意図などを間接的に伝えようとする。すなわち、韓国語では発話理解の責任が話者にあり、日本語では聞き手にあるのではないかという仮説を提出することができる。

---

[59] Brown & Levinson（1987）がポライトネス戦略を積極的ポライトネス戦略（positive politeness strategy）と消極的ポライトネス戦略（negative politeness strategy）の2種類に分けているが、元(2008: 103-105)は日本語が消極的ポライトネス戦略（negative politeness strategy）に基づいていると述べている。

池上（2001：260-263）は、コミュニケーションの成功に関して、話し手に主な責任があるとするのが＜話し手責任＞、聞き手に主な責任があるのが＜聞き手責任＞というハインズ（J.Hinds）の分類を紹介している。この分類法に基づいて、この二つのうちどちらに多く傾くかという観点から言語社会を類型的に分けることができると述べ、たとえば英語は＜話し手責任＞、日本語は＜聞き手責任＞という傾向が優越すると指摘する。そして、＜聞き手責任＞の文化は日本だけではなく、韓国や古代中国もその文化に属すると紹介している。もちろん、この指摘は、必ずしも実証的な資料に裏付けられているわけではないが、本論文の分析結果に基づいて提出した仮説と明らかに異なる方向性をもつ。したがって、本研究で提出した仮説を主張し続けるためには、さらに多くの資料に基づいた実証的な検証が必要となる。

この仮説をとくにコンテクスト化の合図という枠組みを利用して検証するためには、本研究で着目した呼びかけ表現やフィラーだけでなく、コンテクスト化の合図として利用可能なあらゆる言語的・非言語的手段を考慮した研究を実施する必要がある。これは、今後の課題となろう。

第7章　結論

本研究ではまず、日本人夫婦間と韓国人夫婦間で使用される呼びかけ表現に関する先行研究の調査結果を概観し、夫婦間の呼びかけ表現が日韓で異なることを確認した。先行研究においては、場面による差異の調査は少数例しかなかったが、少なくとも場面に応じて呼びかけ表現を変化させることがあることが分かった。そして、先行研究では、呼びかけ表現として利用可能な言語表現の種類の収集と分類を扱った文献が大部分を占め、会話における呼びかけ表現の使用頻度といったコミュニケーションでの使用状況についてはほとんど触れられていなかった。

そこで、夫婦が会話で使う呼びかけ表現のバリエーションと使用率を調べるために、日本と韓国の映画やドラマの中の主人公夫婦の会話を分析した。その結果、日本人夫婦に比べて韓国人夫婦のほうが呼びかけ表現のバリエーションも多ければ、その使用率も高いことが明らかになった。

そして、実際の日本人夫婦間と韓国人夫婦間の会話を分析し、ドラマや映画から得た結果と同じく、実際の夫婦間においても日本人に比べ韓国人のほうが呼びかけ表現を頻繁に用い、バリエーションも多いことを検証した。また、韓国人夫婦は呼びかけ表現を会話においてコンテクスト化の合図として使用していることも明らかにした。

さらに、日本人の夫婦が呼びかけ表現をほとんど使わないのは、呼びかけ表現の代わりにフィラーという手段がコンテクスト化の合図の機能を果たすからであることを例証した。このように日本人と韓国人がコンテクスト化の合図として異なる言語的手段を使うのは、会話における話し手と聞き手の発話理解へ向けた貢献責任が日韓で異なるからであるという可能性を指摘した。

本研究では、韓国語の呼びかけ表現と日本語のフィラーのように異なる言語的手段をコンテクスト化の合図という枠組みで説明しようと試みた。コンテクスト化の合図としてはさまざまな言語的・非言語的手段が利用可能である。また、そのようなさまざまな言語的・非言語的手段を同時に使用して、コンテクスト化の合図を送ることもできる。本研究では、そのような利用可能な言語的・非言語的手

段がさまざまに存在しうる中で、とりわけ呼びかけ表現とフィラーに着目して比較した。そして、その結果、夫婦間の会話では、この二つの手段についていえば、たしかに日韓のそれぞれの会話でコンテクスト化の合図として機能していることが確認できた。しかし、他の手段も利用して同時にコンテクスト化の合図を送っている可能性がある。とするなら、コンテクスト化の合図という枠組みにおいて、呼びかけ表現とフィラーという二つの手段に限定して、そのように異なる手段を用いる背景を論じるには根拠となる資料が不十分であると言わざるをえない。今後、コンテクスト化の合図として利用可能なさまざまな言語的・非言語的手段を対象にした多面的な調査が望まれる。

文 献

＜英語＞

Braun, Friederike (1988): *Terms of Address*. Berlin; New York; Amsterdam: Mouton de Gruyter.

Brown, Penelope and Levinson, Stephen C. (1987): *Politeness: Some universals in language usage*. Cambridge: Cambridge University Press.

Gumperz, John J. (1982): *Discourse Strategies*. Cambridge: Cambridge University Press.

Schiffrin, Deborah: *Discourse Markers*. Cambridge: Cambridge University Press.

Yoon, Sumi (2008): "Comparison between Korean and Japanese address terms as contextualization cues in husband-wife's dialogue." *Inquiries into Korean Linguistics Ⅲ*, pp.377-387.

Yoon, Sumi (2008a): "Can fillers function as contextualization cues in a Japanese conversation? -Based on comparison of address terms in Japanese and Korean-." Paper presented at the 10th Annual International Conference of the Japanese Society for Languages Science (JSLS) in Shizuoka.

Yoon, Sumi (forthcoming): "A Contrastive Study of Metacommunicative Functions of Address Terms between Husband and Wife in Korea and Japan." *The Congress Book of the 18th International Congress of Linguists.*

＜日本語＞

韓先熙（1994）:「韓国では夫をどう呼ぶか ―日本語との対照を交えて―」『ことば』15, 現代日本語研究会, pp.70-88.

韓先熙（1996）:「韓日両国にける呼称対照研究 ―夫が妻を呼ぶ時―」『語文学研究』4, 祥明女子大学校語文学研究所, pp.579-605.

洪珉杓（2007）:「日韓両国の言語行動の違い ―夫婦呼称の日韓比

較—」『日本語学』26(2), pp.80-92.
池上嘉彦 (2001):『「日本語論」への招待』講談社.
今村洋美 (1996):「呼びかけ表現」『社会言語学への招待』田中春美/田中幸子編, ミネルヴァ書房, pp.113-124.
井上逸兵(2003):「コンテクスト化の資源としての呼称 —言語とコミュニケーションの生態学への試論—」『社会言語科学』6(1), 社会言語科学会, pp.19-28.
井上逸兵 (2005):『ことばの生態学—コミュニケーションは何でできているか—』慶應義塾大学出版会.
任栄哲 (2005):「韓国語における配慮表現 —日本語と比較して—」『社会言語学』13(1), 韓国社会言語学会, pp.229-247.
串田秀也 (2005):「『いや』のコミュニケーション学」『言語』34(11), pp.44-51.
松田謙次郎 (2001):「文法的変異」『応用社会言語学を学ぶ人のために』ダニエル・ロング/中井精一/宮治弘明 編, 世界思想社, pp.120-128.
中村香代子 (2007):「日本語の感謝表現と共に用いられるフィラーについて —自由記述式談話完成テストの回答分析から—」『語学教育研究論叢』24, 大東文化大学, pp.149-190.
泉子・K・メイナード (2004):『談話言語学』くろしお出版.
朴成泰 (2006):「韓国語と日本語の言い淀み (fillers) に関する対照研究」『日本語文学』28, 韓国日本語文学会, pp.37-53.
朴成泰 (2007):「韓国語と日本語の談話マーカーに関する研究」『日本語文学』33, 韓国日本語文学会, pp.57-70.
定延利之 (2005):『ささやく恋人、りきむレポーター —口の中の文化』岩波書店.
鈴木孝夫 (1973):『ことばと文化』岩波書店.
滝浦真人 (2007):「呼称のポライトネス“人を呼ぶこと”の語用論」『言語』36(12), 大修館書店, pp.32-39.
元智恩 (2008):「『白い巨塔』における日韓の勧誘の言語

行動」『日本文化研究』25, 東亜細亜日本学会, pp.91-107.
山根智恵（2002）：『日本語の談話におけるフィラー』くろしお出版.
尹秀美（2007）：「日韓の夫婦間の呼びかけ表現 —先行研究の問題点と今後の展望—」『論文集』2, 金沢大学経済部社会言語学演習、pp.85-96.
尹秀美（2008）：「呼びかけ表現の使用パタンの日韓比較 —インターネットサイト上のメッセージを例に—」『論文集』3, 金沢大学経済学部社会言語学演習, pp.37-48.
尹秀美（2008a）：「呼びかけ表現を好む韓国人、呼びかけ表現を避ける日本人 —コンテクスト化の合図という観点から—」『韓国語学年報』4, 神田外語大学韓国語学会, pp.21-31.
米田正人（1986）：「夫婦の呼方」『言語生活』7, pp.18-21.

＜韓国語＞

한영옥(2006):「한일 호칭의 사회언어학적 고찰」박사학위논문, 중앙대학교.
홍민표（1999）：「한・일 부부 호칭의 대조언어학적 연구」『일본학보』 제45집, 한국일본학회, pp.301-317.
조남호(2001):「'마누라'의 의미변천」『한국어의미학』9, 한국어의미학회, pp.199-220.
김혜숙(2004):「한국인 부부의 관계 변화에 따른 호칭어 사용 변화」『사회언어학』제12권 2호, 한국사회언어학회, pp.131-156.
李玉連（1987）：「國語 夫婦呼稱의 社會言語學的 考察」『亞細亞女性研究』pp.193-213.
李庸悳（1998）：「한・일 양언어에 있어서의 배우자 호칭에 관한 연구-지방언어권을 중심으로-」『日本学報』第40集, 한국일본학회, pp.93-106.
유경숙(1993):「현대 일본어에 있어서의 부부 호칭에 관한 연구」『同日文研究』pp.91-115.

＜辞書＞

民衆書林編集局編『ＮＥＷポータブル日韓・韓日辞典』2004,

三修社.
新村出編『広辞苑』、第5版, 1997, 岩波書店.
표준국어대사전, 인터넷 국립국어원 홈페이지,
(URL: http://www.korean.go.kr)

資料（映画およびドラマの調査資料）

「Fun with Dick & Jane」(2005) DVD Sony Pictures Entertainment, Imagine Entertainment.
「내일의 기억（明日の記憶）」(2007) DVD 우성 엔터테인먼트.
「ラスト・プレゼント(선물)」(2005) DVD キング・レコード.
「今週、妻が浮気します」(2007) DVD ポニーキャニオン.
[투명인간 최장수（透明人間チェ・ザンス）」(2006) KBS (다시보기 동영상).
「アット・ホーム・ダッド」(2004) DVD ポニーキャニオン.
「불량주부（不良主夫）」(2005) SBS (다시보기 동영상).